

令和4年度発達障害児者地域生活支援モデル事業

ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修 報告書

令和5年3月

社会福祉法人グロー 滋賀県発達障害者支援センター

目次

寄稿 「本取組みに寄せて」(滋賀大学 芦谷道子教授)……………	03
第1章 事業概要	
1-1 本事業の経緯……………	04
1-2 事業目的……………	04
1-3 事業内容……………	05
第2章 各自治体でのペアレント・トレーニング実施体制に関する調査分析	
2-1 調査の目的……………	06
2-2 調査活動……………	06
2-3 調査結果の分析……………	20
2-4 他都道府県の情報収集……………	20
第3章 R市におけるペアレント・トレーニングについて	
3-1 R市の実施状況……………	22
3-2 R市が実施できている要因……………	22
3-3 R市への家族支援普及事業アドバイザー派遣……………	23
第4章 ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修の実施	
4-1 養成研修の実施……………	26
4-2 PTファシリテーター養成研修事後のアンケート調査結果と効果検証……………	31
4-3 満足度調査……………	37
4-4 結果と効果検証……………	38
4-5 フォローアップ研修……………	39
4-6 フォローアップ養成研修事後のアンケートによる満足度調査……………	40
第5章 今後の事業の方向性	
5-1 考察……………	44
5-2 課題と今後の展望……………	44
付録 フォローアップ研修配布資料……………	46

『本取り組みに寄せて』

私をはじめペアレント・トレーニングの概念に触れてからかなりの年月がたちました。英語を翻訳しながら、手探りで目の前の臨床に活かす日々、その意義と効果を痛感する中で、こういったことが日本の保護者さんたちにも広く届けられればと夢見ておりました。国の支援を受けて、県全体でペアレント・トレーニングに取り組む本取り組みの計画を始めてお聞きしたときに、とうとうここまできたと、大きな感慨を覚えたことを思い起こしております。

私は心理師として個人心理療法の中で発達障害（傾向）のあるお子さんたちの保護者さんに向き合うとき、「スペシャルなニーズをもつ子ども達を育てるには、スペシャルな知識が必要なので、普通の保護者はできなくて当然なのです。ペアレント・トレーニングを通して、育児のコツを知っていただき、スペシャルなお母さん、お父さんになっていただくことが目標です。お子さん一人一人は一人ひとり違う個性があるので、一緒にお子さんに合ったコツを探していきましょう」とまずは伝えることから始めています。この言葉を伝えるだけで、保護者さんの緊張がほどけて顔が緩みますし、なかには泣き出される方もおられます。まずは保護者さんの自責を解き、安心して子育てに向き合える温かな場づくりが大事だと思っています。

どんなに良い取り組みも、性急な広がり求めると、形骸化してしまって結局廃れてしまうという事象をこれまでに経験してきました。大事なことほど、慎重にゆっくりと広めることが大切だと考えております。この1年、この取り組みを傍らで見せていただき、保護者さんたちが心を緩めることのできる温かな場が作られ、確実に実を結び、有機的な繋がりが育まれていることを実感しております。ペアレント・トレーニングの本質をつかみ、粘り強く真摯に取り組まれた滋賀県発達障害者支援センターの皆様、市町のファシリテーターの皆様のご尽力に敬意を表したいと思います。ろうそくの明かりをそっと手渡しで伝えてゆくように、ペアレント・トレーニングの輪が市町を超えて少しずつ手渡され、子どもたち、そして保護者さんたちを県全体で温かく包むことができるような日が来ることを、心より願っております。本事業の今後のますますの発展を祈念いたします。

滋賀大学 芦谷道子

第1章 事業概要

1-1 本事業の経緯

平成28年の発達障害者支援法の改正において、身近な地域での支援体制の充実を図ること、家族支援も含めたきめ細やかな支援の充実、幅広い分野での個々の障害特性の理解の促進を図ることなどが盛り込まれた。

発達障害者への支援のための体制整備において、厚生労働省は、「乳幼児期から成人期における各ライフステージに対応する一貫した支援を行うため、関係機関等によるネットワークを構築するとともに、発達障害者支援地域協議会を設置し地域における発達障害者の支援体制に関する課題について情報を共有し、関係機関等の連携の緊密化を図るとともに、地域の実情に応じた支援体制の整備について協議するとともに、家族支援体制の整備やアセスメントツールの導入促進のための研修を実施する。」※1こととした。

滋賀県では、令和元年度より発達障害者支援体制の充実を図る取り組みの一つとして、家族支援事業普及事業が実施された。その中で、ペアレント・メンター養成研修が開催され、令和3年度よりペアレント・トレーニング市町担当者研修（前期・後期）の実施する計画となった。

この、ペアレント・トレーニング市町担当者研修（前期・後期）は、市町におけるペアレント・トレーニングを実施・推進することができる人材を養成する目的で、市町の発達支援室・支援センターの担当者を対象とし、前期・後期と2回開催された。この中で、滋賀県としては、ペアレント・トレーニングに焦点を当てて、家族支援事業の充実を図ることとした。

1-2 事業目的

令和4年度より、国のモデル事業を受託し、地域における発達障害児の子育てに悩む保護者が身近な場所で子育ての仕方について学ぶことができるためのペアレント・トレーニングの実施方法やペアレント・トレーニングを実施できる人材育成の方法を開発することを目的として事業を実施することとなった。

このモデル事業により、人材育成のために、ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修・その受講者に対するフォローアップ研修を実施し、人材育成の方法についてどのような研修が有効なのかを検証する。また、実施している市町や実施を検討している市町にアドバイザーを派遣することで、その有効性についても確認していくこととする。

滋賀県内の市町でペアレント・トレーニングを実施できる体制を整えてもらう時、どんな要素があれば、どんな課題をクリアすれば実施に向けて進むことができるのかについて調査する。また、人口規模に応じた実施体制を整えるために有効な手立は何なのかを明らかにしていく。

これらのことを検証していくことで、全国どの市町に住んでいても同じようにペアレント・トレーニングを受けられることができる環境づくりの一助となるよう、検証していく。

1-3 事業内容

(1) ペアレント・トレーニングファシリテーターの養成

市町においてペアレント・トレーニングを実施・推進することができる人材を養成する。

① 「ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修」(年1回)

市町においてペアレント・トレーニングを実施・推進するために必要な知識と技術に関する講義および演習を行う研修。

② 「ペアレント・トレーニングファシリテーターフォローアップ研修」(年1回)

ペアレント・トレーニングファシリテーターに対して、ペアレント・トレーニングの実施状況や運営方法に関する情報交換および講師から助言をもらう研修の実施。

(2) ペアレント・トレーニングアドバイザーの派遣(派遣依頼に応じて)

市町担当部署からの要請に基づき、家族支援普及アドバイザーを派遣し、ペアレント・トレーニングの実施・推進に関する検証を行う。

(3) ペアレント・トレーニング普及に関する研究

① ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修・フォローアップ研修を実施後、アンケート調査を実施する。また、各市町を訪問し、実態調査を行う。

② 聞き取り調査等から、県内の市町の実態に応じたペアレント・トレーニング実施に向けた方策を研究し、その成果をまとめる。

③ モデル市を選定し、ペアレント・トレーニングを市町で実施する方法と県内市町への普及推進策の検討。

※1 [発達障害支援施策資料 \(hattatsu.go.jp\)](http://hattatsu.go.jp) (令和5年2月27日閲覧)

第2章 各自治体でのペアレント・トレーニング実施体制に関する調査

2-1 調査目的

滋賀県は19市町(13市6町)で構成されている。各市町で実施している家族支援については、講義型式の学習会や個別相談の中でペアレント・トレーニングの要素を取り入れたプログラムを行なうなどの取り組みがおこなわれている。

令和3年度(2021年度)、市町においてペアレント・トレーニングを実施・推進するために、現状把握の為に事前アンケートを行った。「ペアレント・トレーニング・ペアレント・プログラムに関する事前アンケート結果によると、ペアレント・トレーニングを「実施中」との回答は6市町であった。

今回の、令和4年度(2022年度)調査では、ペアレント・トレーニング実践ガイドブック(一般社団法人 日本発達障害ネットワークJDDnet 事業委員会)に記載されているように、実施するプログラムを「ペアレント・トレーニング」と呼ぶための必須となるものとして『基本プラットフォームに基づいている』ことと定義した。「実施している」とされるところが基本プラットフォームに基づいたものになっているか、また、実施できている状況・実施が難しい状況を具体的に把握することにより、県内で実施の体制を整えるために有効な手立ては何なのかを明らかにしていくことを目的とした。

2-2 調査活動

2-2-1 調査活動の概要

調査時期 2022年7月～2023年2月

調査対象 19市町

調査方法 16市町訪問と3市町電話調査を実施。1市は一部分のみの回答

調査内容 市町のペアレント・トレーニング取り組み状況等について

*調査を行うにあたり、ペアレント・トレーニングを定義する必須項目としての『基本プラットフォーム』とは以下のとおりである。

1. コアエレメント(プログラムの核となる要素)

- ・子どもの良いところ探し・ほめる
- ・環境調整(行動が起きる前の工夫)
- ・子どもの行動の3つのタイプ分け
- ・子どもが達成しやすい指示
- ・行動理解(ABC分析)
- ・子どもの不適切な行動への対応

2. 運営の原則

- ・親がどのように学ぶのか、親にどのように教えるのか、といった運営の原則や工夫

3. 実施者の専門性

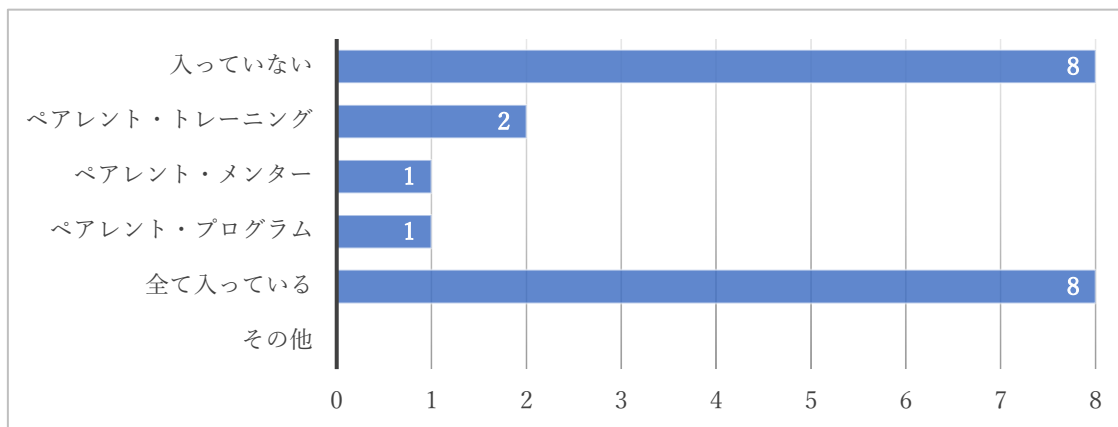
・実施にあたり、多くのスキルが必要となる。ファシリテーター、サブファシリテーターの役割

調査では基本プラットフォームに関する項目は必須とし、そのほかに事業を継続するための体制・人員などについての項目を設定した。

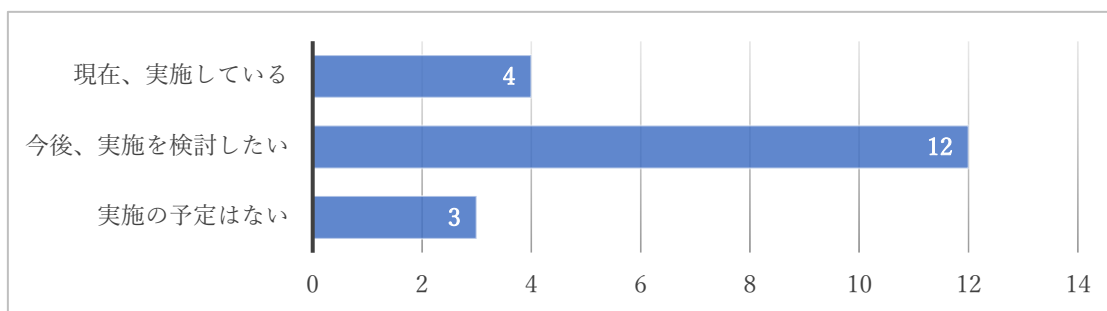
【以下、調査結果】

2-2-2 アンケート結果(19市町)

- ① 貴市町の障害者プランに発達障害児者の家族支援(ペアレント・トレーニング、ペアレント・メンター、ペアレント・プログラム)についての項目があるか ※複数回答可



- ② ペアレント・トレーニングの実施状況

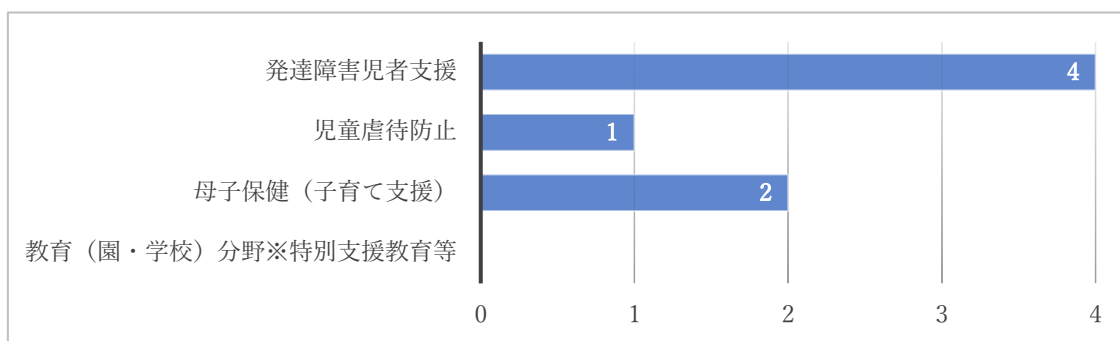


*最終、2月9日時点での結果

2-2-3 実施している市町のアンケート結果(4市町)

① 現在実施しているペアレント・トレーニングの主な目的。

※複数回答可



② 実施を開始された年度

2009年	2012年	2021年
1件	1件	2件

③ 事業として継続できている背景にある要素として

- ・スタッフが手ごたえを感じることができている。
- ・人材育成が出来ている。研修に行く予算を取っているので、初めての職員は研修を受けている。また、所内にアドバイザーがいるので、スタッフが異動してしまってファシリテーターを出来るスタッフがなくなった時には、アドバイザーが応援に入ってもらえることができる体制がある。所内で連携しながらおこなうことができているため。
- ・市ならではのテキストを作成しておこなっている。宿題が出来ない保護者もいたので、家に持ち帰ることは現実的ではないと思い宿題はだしていない。しかし、学びを活かしてもらええる工夫をしている。(最初は宿題もあったが限界があったため)
- ・予算の確保。人件費、本代、場所の確保をしている。
- ・保護者のニーズがある。(療育教室、ことばの教室、個別相談を利用している保護者)
- ・障害者福祉プランのなかで目標にかかげている。

④ 参加者の定員、実施回数、開催頻度、時間

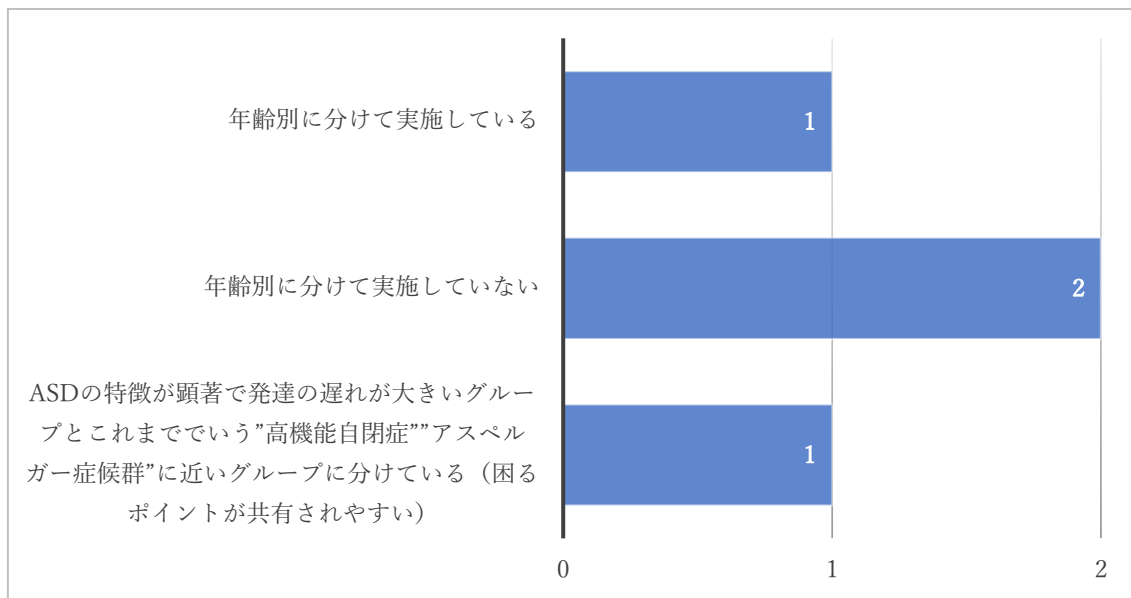
	定員	実施回数	開催頻度	時間
R市	5人~7人	年間2回(6月~8月・9月~12月) 1クール全6回	隔週	120分
O市	12人~14人 (2グループに分かれる)	年間3回(1学期・2学期・3学期) 1クール5回(2学期のみ思春期)	隔週	90分

M市	5人～6人	年間2回(5月～7月・9月～12月) 1クール6回	隔週	90分
H市	4人～6人	年間1回(5月～3月) 1クール全11回	月1回	60分

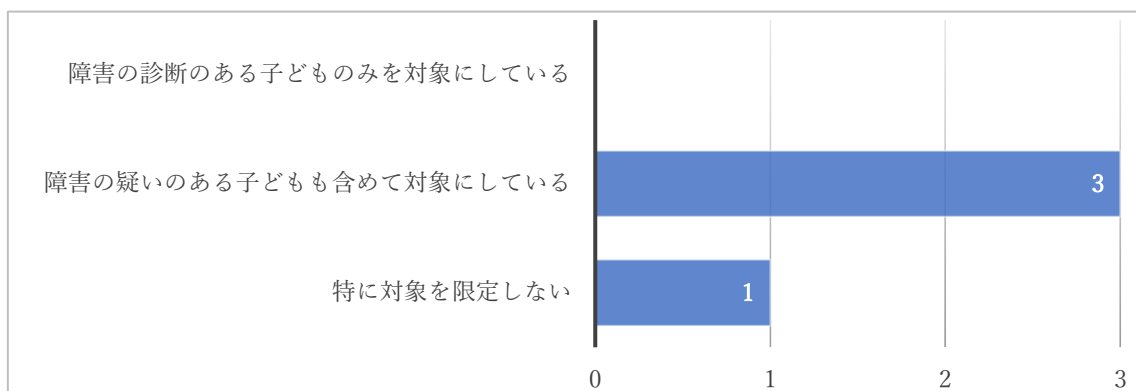
⑤ ペアレント・トレーニングの参加者の募集方法について

4市とも限定的な募集をされている。個別相談の中で必要と思われる保護者に案内や療育教室、ことばの教室、個別相談のなかから保護者に案内。

⑥ グループ分けについて



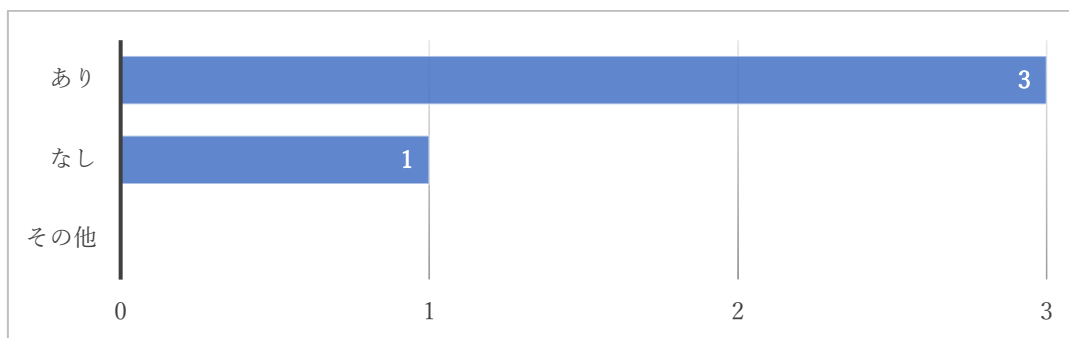
⑦ 参加するにあたり、子どもの障害(診断)の有無について



⑧ 参加費について

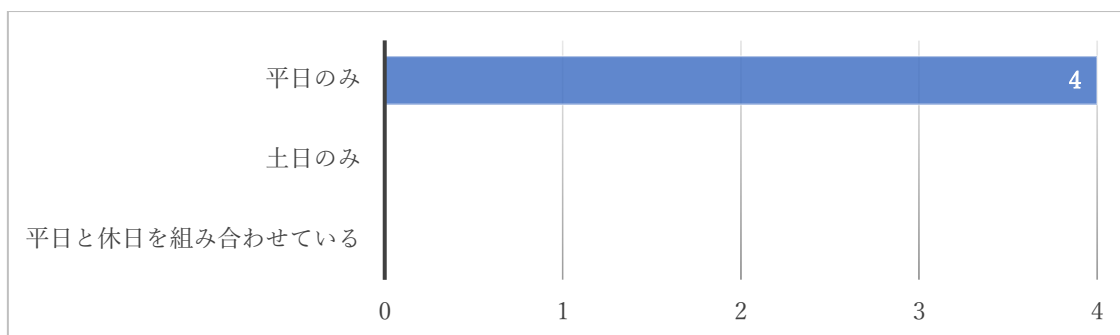
参加費については、4 市町無料。

⑨ プログラムの実施中の託児の有無について

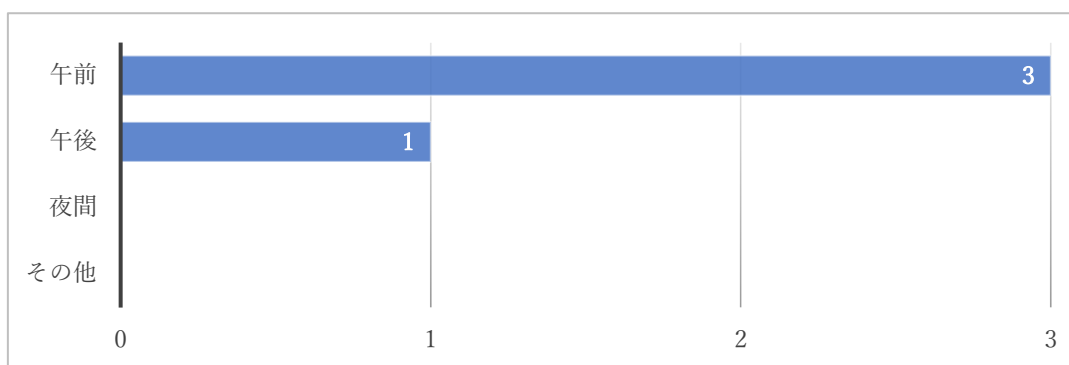


託児がある市は、託児をおこなう予算を確保しているため、託児をおこなうことができている。

⑩ プログラムの実施日(曜日)について

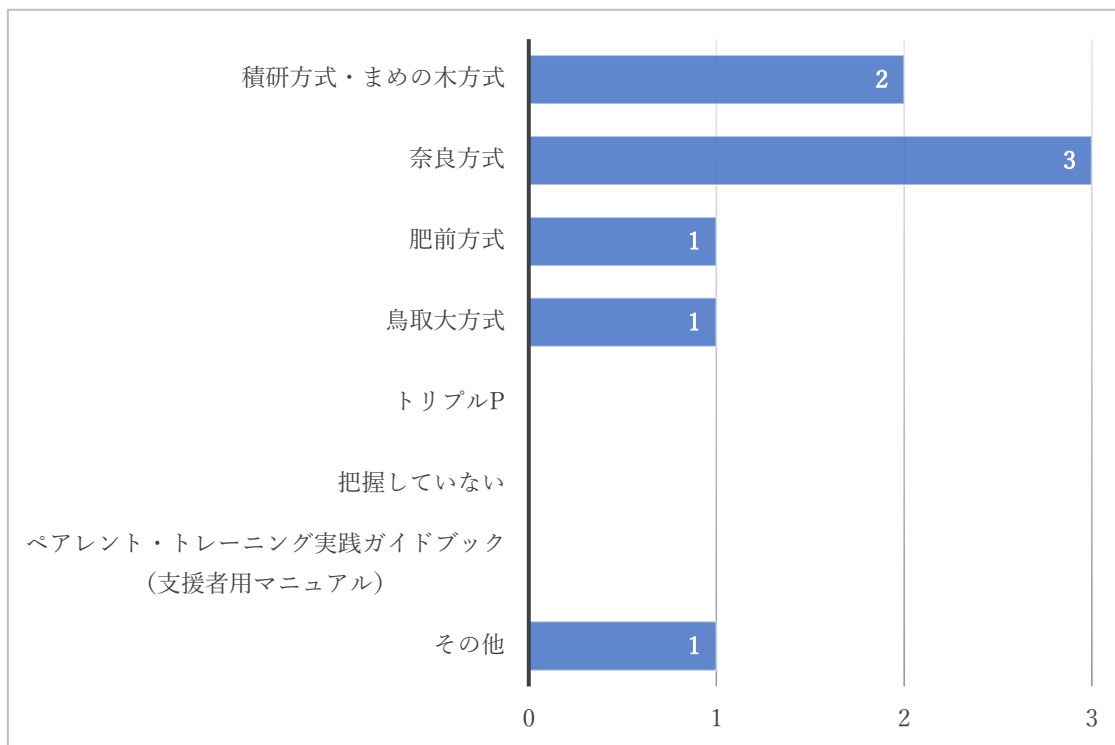


⑪ プログラムの実施時間帯について



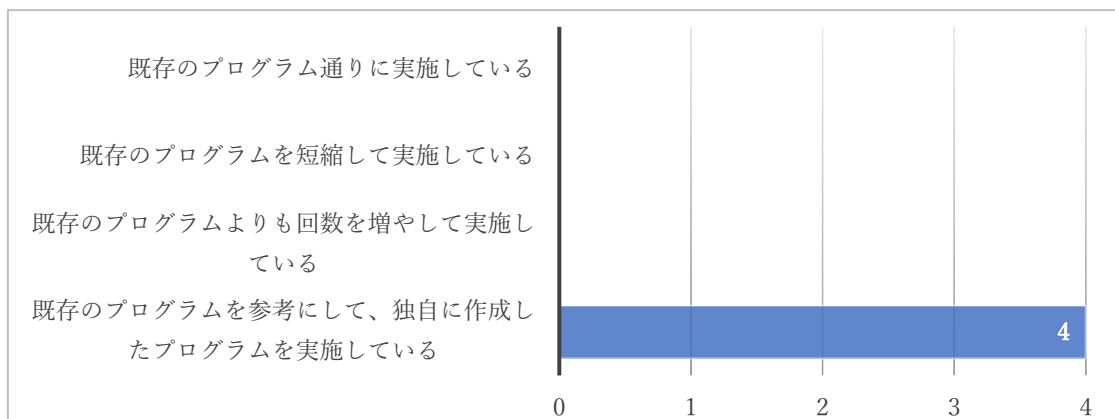
⑫ 実施されているペアレント・トレーニングの方式について

※複数回答可

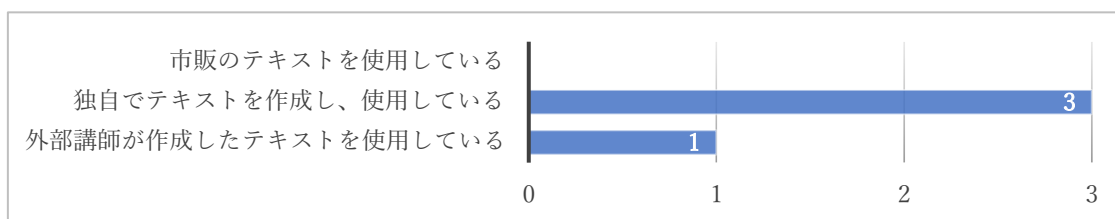


その他・・・市販のペアレント・トレーニングの本を参考

⑬ 実施しているプログラムの内容について



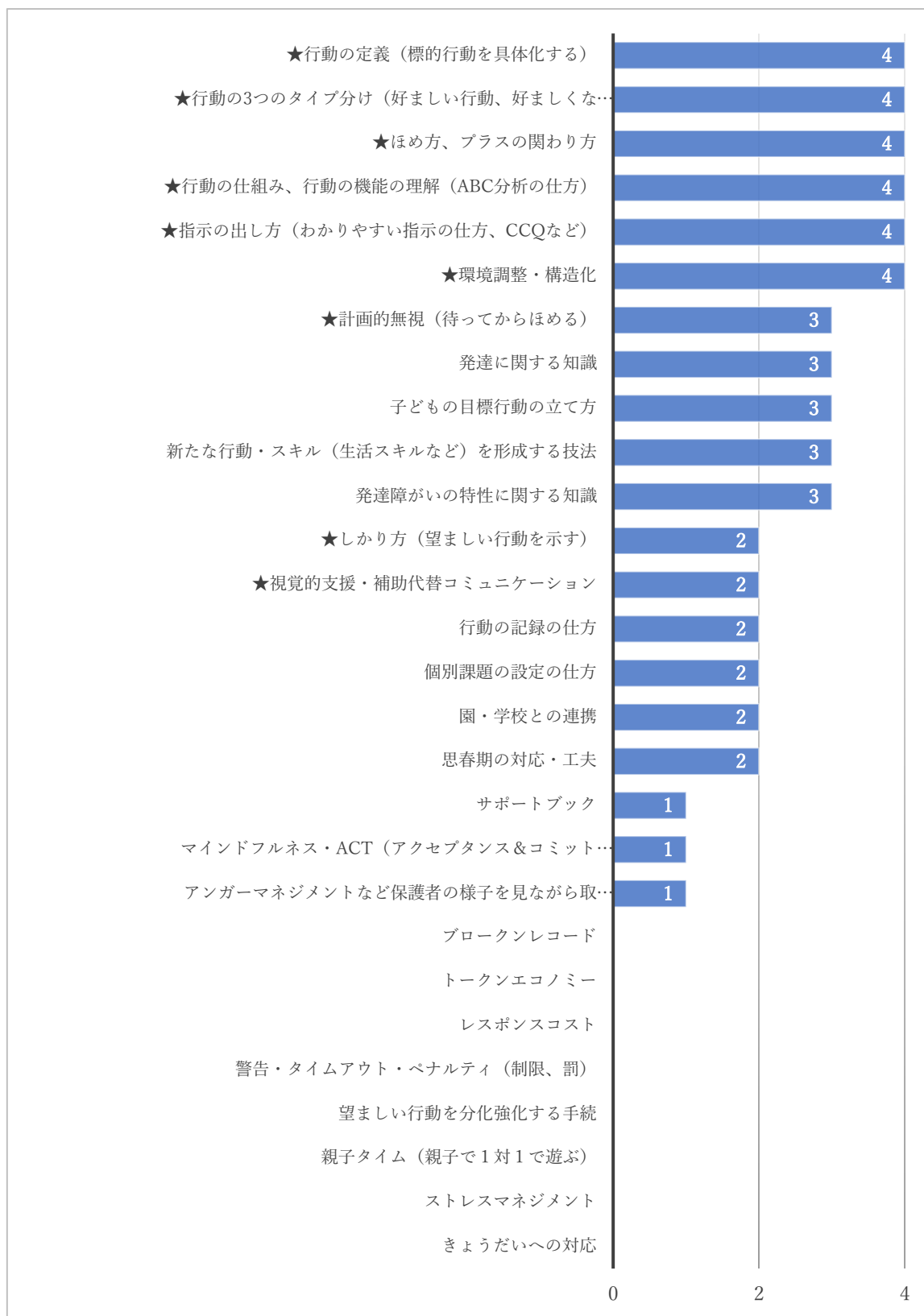
⑭ テキスト(資料)について



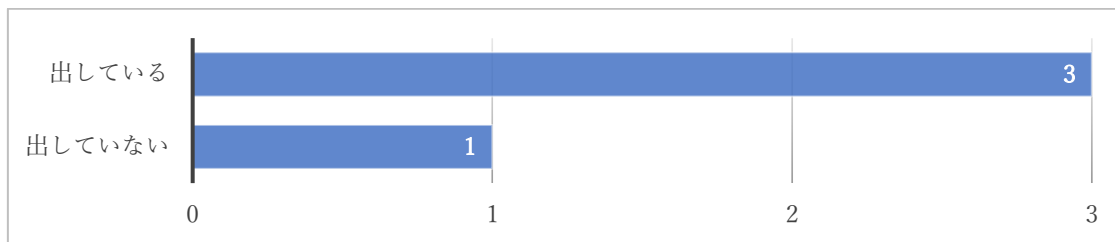
⑮ 実施しているプログラムの内容について

*実施しているものすべてにチェック

★印はプログラムの核となるコアエレメント



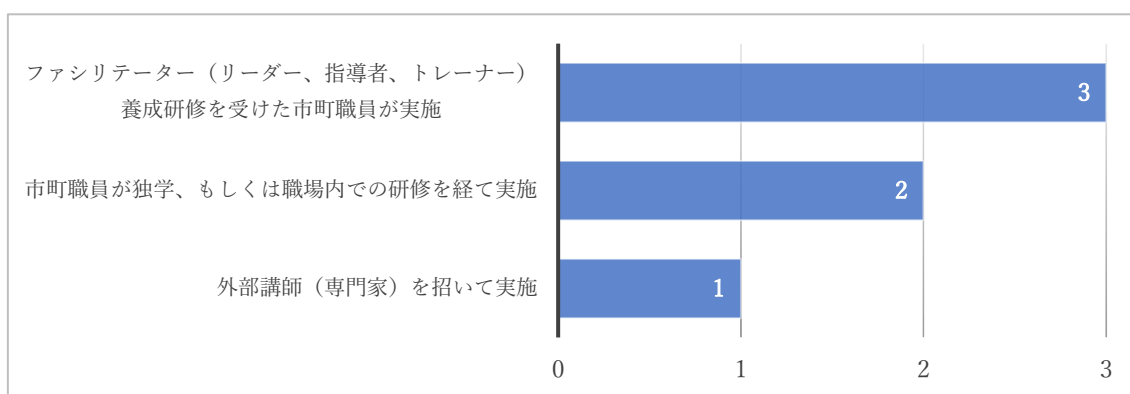
⑩ ホームワーク(宿題)について



*出していない…宿題という形ではないが、学びを活かしてもらえる工夫をおこなっている。

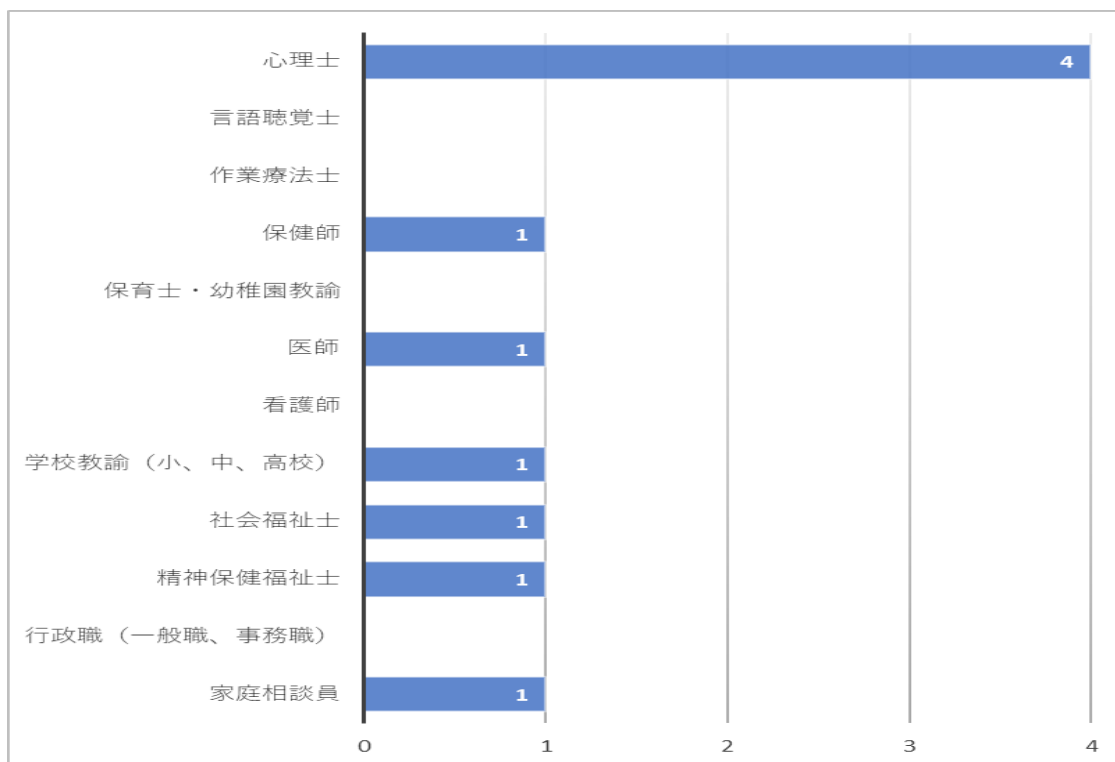
⑪ 実施されているペアレント・トレーニングのファシリテーターについて

*複数回答可



⑫ ファシリテーターの職種について

*複数回答可



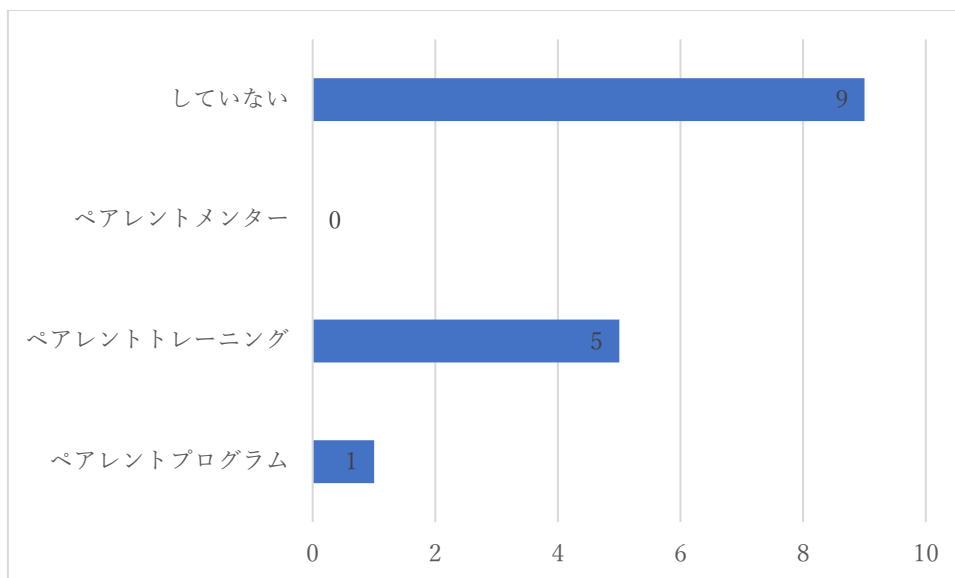
⑱ 実施するにあたり、必要な職員（ファシリテーター、補助スタッフ）の人数について
2名～3名（リーダー1名、サブ1名～2名）

⑳ ペアレント・トレーニング終了後のフォローアップの実施について



2-2-4 現在未実施の市町へのアンケート結果（15市町）

① 過去に実施していた事業について

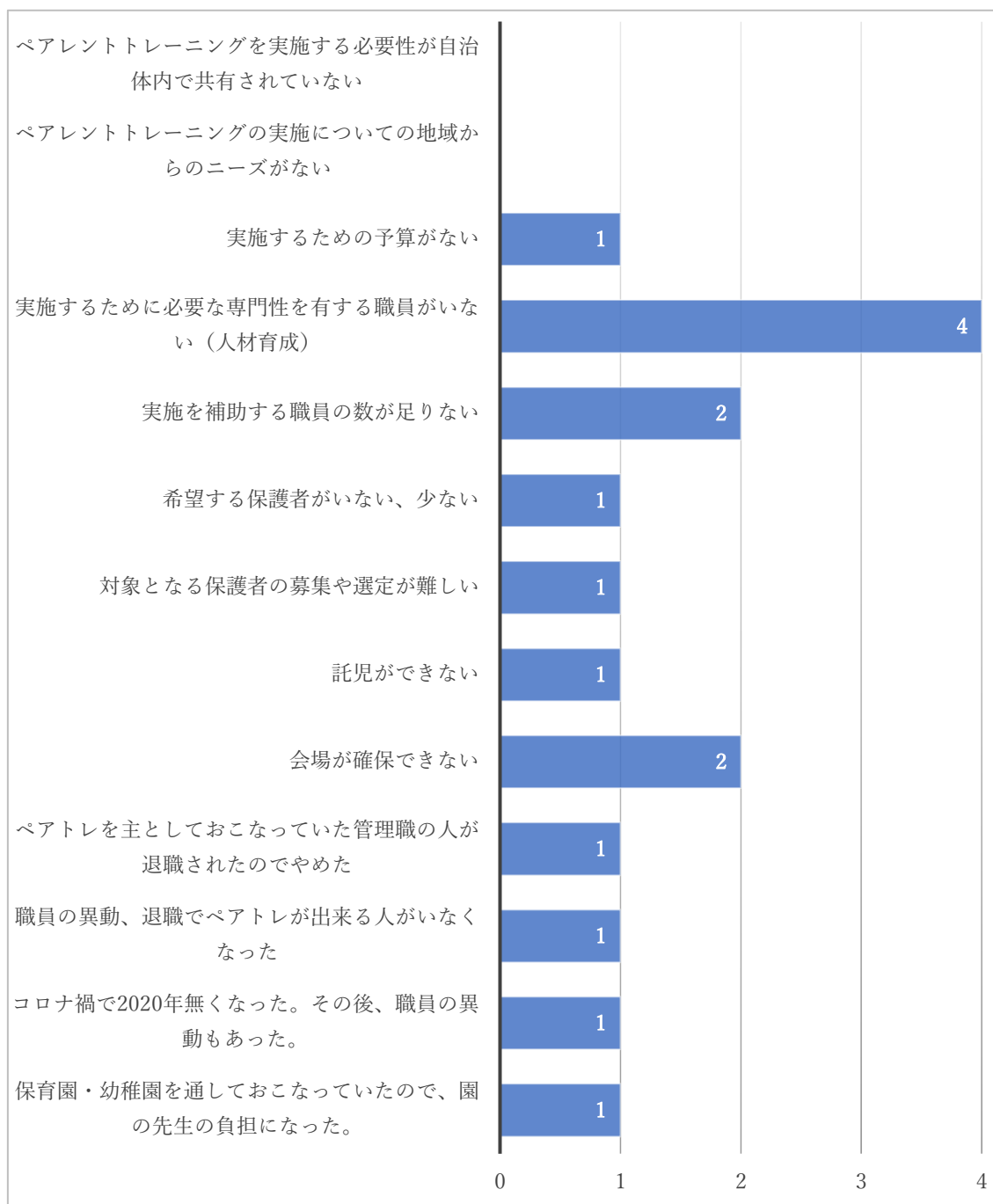


② 過去に実施していたペアレント・トレーニングの開始および終了年度について

- ・R3（2021年）に試行。1年
- ・平成21年（2009年）～平成25年（2013年）4年
- ・平成23年（2011年）頃
- ・平成25年（2013年）～平成29年（2017年）5年
- ・平成26年（2014年）～令和2（2020年）6年
- ・平成26年（2014年）～数年やっていた。

③ 実施を継続することが難しかった理由について

※複数回答可



他、実施されていた際に感じておられた運営の困難さや継続が難しかった理由

1	R3年に親子教室でペアレント・プログラムをおこなってみました。未就園児の親子が集まるところで何かしたいと思いペアレント・プログラムをおこなった。10組ほど集まってくれたが、多動の子どもが多かった。その為、親子ワンフロアで別れてと思ったが、分離ができなく、子どもが側にいたりしたので継続するのが難しくなった。・ペアレント・トレーニングではなく、ペアレント・プログラムをおこなったのは、ペアレント・プログラムの
---	---

	方が子育て全般に広がると思ったからである。
2	療育教室のなかで、実際にペアレント・トレーニングをおこなってみた。少ない人数の保護者におこなうより、ティーチャーズ・トレーニングの方が良い（保護者だけでなく、保育士とかも育てないといけないと思った）のではないかということでペアレント・トレーニングからティーチャーズ・トレーニングに変更した。
3	PT をやってくれていた人が退職したので止めることになった。
4	保護者が学びたいと思ってくれる人が少なく、グループワークが苦手な保護者が多く難しかった。
5	人材育成をおこなおうと思うが、ファシリテーターをやる自信がないと話される職員が多く育たなかった。
6	以前おこなっていた担当が変わったのでわからない状態である。
7	保護者のペアレント・トレーニングの考え方が「しつけ」になってしまうので、そうならないように気を付けていたが、難しかった。
8	4つの公立保育園を周り、保育園の先生に声をかけてもらい6人ぐらいの保護者を集めておこなっていた。保育園を通しておこなっていたので、園の先生の負担になってしまった。
9	本当は保育園のなかで普及させてもらいたかったのだが普及しなかった。テキスト準備していたが実施するのは無理だった
10	6回コースで終わるので、支援としての効率が悪いということになってしまった。

④ 実施するために必要だと思われることについて

1	人と場所の確保。人件費にお金がかかる。
2	予算の確保（補助金は継続して続けてほしい）
3	人材確保。人材育成。
4	ニーズはあるので、PT ができる職員の確保。県センターの主催する PT ファシリテーター養成研修に参加したが、研修を受けて「出来るのか？」と不安になった。しかし、ニーズがあるので実施したい（復活させたい）と思っている。
5	PT が出来る職員の確保

2-2-5 今後、実施を予定・検討されている市町へのアンケート結果(12市町)

① 予定、検討されることになった経緯や背景

1	個別相談の中で、19歳以上の相談が増えている。その中で、親子関係がこじれているケースが多い。その為、小さい頃からのPTのような家族支援が必要、大切であると感じている。
2	現在、PTをおこなっている(H31年～)。外部から講師を招いて行っている。そろそろPTに移行してもよいと考えている。
3	県が家族支援を取り組みだし、このタイミングでおこなおうと思った。他市町がおこなっていることを聞きやらなければと思った。
4	個別相談のなかで、困ってから相談に来るのではなく啓発していくことができたらと思い、家族支援に取り組むことにした。家族支援のうちのPTに興味があり、取り組むことにした。また、県が取り組んでくれたので相談できると思った。
5	PTは必要と感じているため。
6	令和5年度(2023年度)から、子ども庁が出来ることによって、虐待ケースの家族支援をおこなう必要がある。それには、PTがよいと考えている。
7	2022年10月～予定していた。現在、個別相談の中でおこなっている。地域からのニーズがあるので行いたいと思う。個別で実施してからグループでの実施を検討したいと考えている。
8	現在、市独自の形で実施している。知的障害もしくは、週一回の療育教室(親子教室)にて個別の関わり方、児の目標を一緒にたてたり、月1回の学習会(発達相談員が講師となって保護者対象に)、メンターが経験者として体験談を話してもらったり、ことばの教室で未診断児の親子個別の子どもへの関わり方を学ぶ、親の会で茶話会(小集団でお悩み相談)、ことばの教室の親の会の行事で小グループ(多くて8名程度)での話し合い、プログラムとおりにやっていることはないが、目的は共通していると考えている。

② 予定、検討するにあたって課題や不安に感じていることについて

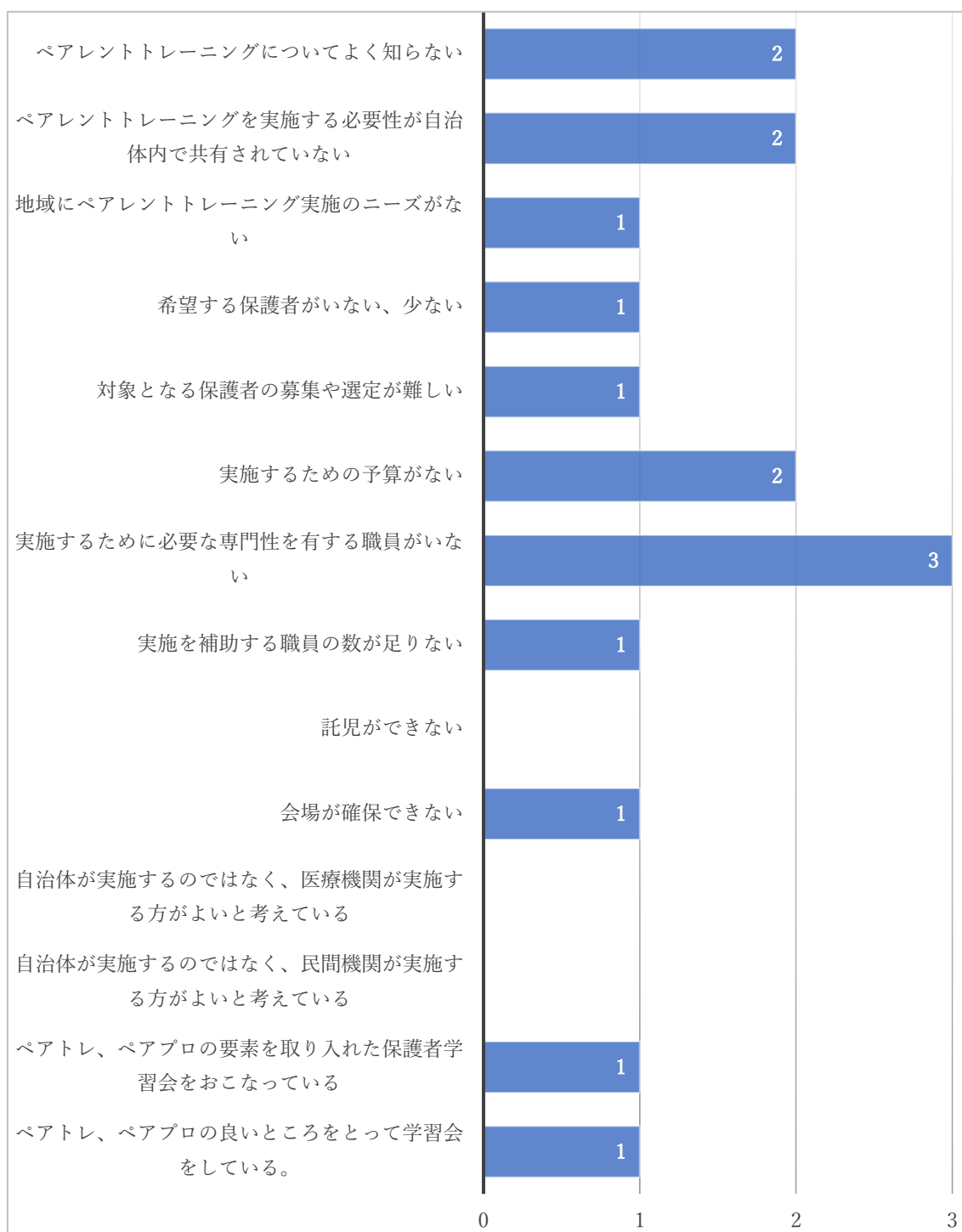
1	予算について知りたい(予算はどのくらい必要なのか?補助金はどのくらいあるのか?等)。
2	人手不足。
3	PTが出来る職員がいない。
4	現在、自分たちの市に合わせたバージョンでテキストを作成している。が、これでよいのかと思っている。
5	継続的におこなっていくことが出来るように考えていきたいと思っている。その為には、自分たちの市のニーズに合った他市町を参考にすることができればと考えている。

6	グルーピングの難しさ。
7	ペアレント・トレーニングをおこないたいと思い、ペアレント・トレーニング養成研修に 2 名が参加したが、人手不足で新しい事業をおこなう余裕がない。
8	ペアレント・トレーニングをおこなうチームを結成したが、ペアレント・トレーニングをしっ かりと知らない職員ばかりなので、研修をとおして学んでいきたいと思っている。
9	ペアレント・トレーニングを実施していくうえで、職員にも保護者にも負担のないように したいと思っている。
10	募集の仕方。小学生に広げるときに、対象をどうするのかと思っている。
11	ペアトレが出来る職員がいないなか、自分の町だけで出来るのか？
12	心理士1人でグループを回していくことには限界があるので、もしペアトレ実施を検討 するのであれば、近隣市町と合同開催、もしくは県から人員を派遣してもらえると実施 可能になるのではないかと思う。

2-2-6 実施したことのない市町へのアンケート結果(9市町)

① ペアレント・トレーニングを実施していない理由

*複数回答可



2-3 調査結果の分析

・調査結果から、人材育成の大切さがわかる。「実施したが継続できなかった」「実施していない」の理由から、人手不足やファシリテーターを行なう人がいないという理由が多くあげられている。また、研修を受けたからといってすぐに実施に繋げることは難しく、所内や所外にアドバイザーがいること、体験をしながら学んでいく体制が整うことで職員が安心して実施出来るのではないかと考える。

・「継続できなかった」理由の「保護者のニーズがない」「予算がない」「託児ができない」などについては、実施している市町のやり方を確認することで解決策を見つけ出すことができ、「やってみよう」という思いを持つことができたのではないかと考える。県が中心となり、他市町の情報伝えることで、自分の市町で出来ることのヒントを見つけることができるきっかけになっている。

・『ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修』を受けることで、ペアレント・トレーニングの基本プラットフォームの必要性、大切さを学ぶことが、実施している市町も、行っていない市町も理解することができた。

・実施中の市は全て、既存のプログラムを参考にして独自に作成したプログラムを利用している。独自のプログラムを作成するのに、ペアレント・トレーニングを受けている保護者の様子を確認、保護者のアンケート結果の確認、市として保護者の方に学んでほしい内容などについて繰り返し確認をおこない独自のテキストを完成させていた。

・担当者がペアレント・トレーニングの必要性や有効性を感じているが、市町の中で周知、共有されていないことで、予算化、事業化されず実施にいたっていないことがわかった。

2-4 他都道府県の情報収集

滋賀県発達障害者支援センターとして、市町に普及させていくためには何を行なう必要があるのか、継続してペアレント・トレーニングを行なうためにどんなことに配慮する必要があるのか。また、県の立場で出来ることと、市の立場での取り組み方について、それぞれの立場での話を聞かせていただいた。市が県に求めるものとしては、始めるためのサポート(ペアレント・トレーニングのやり方のコンサルテーション)があることにより、取り組みやすいとのこと。ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修受講だけでは自信を持って取り組みにくい。しかし、バックアップしてもらうことにより、職員も体験しながらペアレント・トレーニングを行なうことにより学んでいくことが出来る。

H 県発達障害者支援センターが行っている3年間のサポート支援は人材育成にもなり、市の職員のモチベーションにもなるとのことであった。3年間の県の研修後も、困った時に相談にのることができるサポートがあると安心しておこなうことができるとのこと。県としては、県独自のスタッフマニュアル・テキストを作成することで、県の職員が市町に取り組みを伝えることができる。市町に、3年間のコンサルテーションを行なうことで、自立してできる体制をつくっていくことが

普及することができると考えているとのこと。一度にたくさんの市町に普及させると思うのではなく、その市町のニーズがあるので、市町のニーズに合わせて取り組むことができる体制、運営方法を一緒に考えることが大切であることを教えていただいた。また、政令指定都市である F 市発達障がい者支援センターも3年間の取り組みとして、児童発達支援事業所にペアレント・トレーニングのコンサルテーションを行っていた。異動して職員がいなくなることでペアレント・トレーニングが出来なくなった事業所には、再度3年間の取り組みとしてコンサルテーションに行き人材育成を行っているとのこと。F 市発達障がい者支センターが丁寧に気長に人材育成をおこなっていた。

そして、A 市、H 県、F 市と基本プラットフォームを大切に、独自のテキスト、支援者マニュアルを作成し取り組んでいた。

第3章 R市におけるペアレント・トレーニング実施体制について

3-1 R市の実施状況

本研究の目的である、ペアレント・トレーニングファシリテーターの養成と市町への普及のためにはどのような手立てが有効なのかを明らかにするために、R市を「モデル市」として選定することとした。その理由は以下のとおりである。

R市は京阪神へのアクセスの良さなどから、人口（特に子育て世代）が増加傾向にある、人口7万人の小規模な市である。R市発達支援課は発達障害者支援法の施行により、①発達障害を有する子どもと家族への支援 ②教育・保健・福祉を繋ぎライフステージに一貫した支援の提供を目的として令和元年（2019年）に設置された。滋賀県内では早い時期からペアレント・トレーニングを開始され、10年間継続されている。また、発達支援に関する相談窓口として「R市発達支援課」があり、児童発達支援センター療育教室と、相談係が連携を取りながら事業を実施されていることから、モデル市として取り上げることにより、県内の小規模な市への普及の参考としていくことが期待できると考えた。

保育園、幼稚園を巡回し相談を受けていく中で、当時年間100～150件の相談があり、さらに増加傾向になるという状況があった。幼児期支援課の課題として、「保護者支援」「ケース増加に応じたフォロー体制」「保育者支援」等の充実が必要であることが明らかになった。これに対応するために、支援の大切さを普及啓発する1次支援と、支援ニーズが現れた段階での発達相談である2次支援の間を繋ぐ別の取り組みが必要と考えた。これを『1・5次支援』と位置づけ、保護者と保育者が特別な支援ニーズを有する子どもへ肯定的な関りを増やし、育ちを支える実践的な取り組みとして、『ペアレント・トレーニング』を活用した保護者支援と、保育者版ペアレント・トレーニングである『ティーチャー・トレーニング』をともに2012年に開始した。（ティーチャー・トレーニングは一通り終了し、ペアレント・トレーニングのみになった）

2022年、今年で10年となる。現在、小学1年生（療育教室及び幼児ことばの教室を終了した保護者）、個別相談の中から参加者を募り年2回（6月～8月 9月～12月）。各6回コース、R市独自のテキストを作成して実施している。

3-2 R市がペアレント・トレーニングを継続できている要因（実施していない市町との違い）

- ① 課内での連携が出来ており、参加者を集めやすい
 - ・個別相談の中から必要と思われ、かつ、グループワークにも参加が可能な保護者に声をかける。
 - ・療育教室、ことばの教室、発達相談と連携し、参加が可能な保護者に声をかけることができる。（就学前と小学1年生対象）
 - ・途中で参加が出来なくなった保護者に対し、担当していた相談支援員に声をかけしてもらい、そちらからフォローをしてもらうことができる。また、ペアレント・トレーニングの途中で気になることがある保護者がいた場合にも、担当していた相談員にペアレント・トレーニングのスタッフ

が相談することができる。

・ペアレント・トレーニングをおこなうことが出来るスタッフが複数いることで、必要と思われる保護者にタイムリーに説明できる。

② 人材育成をおこなうことができている

・毎年、ペアレント・トレーニング養成研修を受講している。

・経験のあるリーダーの下で、サブスタッフとして参加して学んでいる等、実施する中で学ぶ体制を整えることができている。

・スタッフが困り、気持ちがモヤモヤした時に、相談することができるスタッフ体制がある。

③ 市独自のテキストを作成している

・岩坂英巳先生（奈良教育大学）の資料を参考に、R市で使いやすいアレンジしたテキストを作成。実際に実施する中で、保護者の様子をみながらテキストの内容について見直している。

・保護者のテキスト、スタッフのテキスト、マニュアルがあることで、スタッフの準備や気持ちの負担の軽減が図れている。

④ 予算の確保ができている

・障害福祉計画の中に位置付けられていることで、予算の確保が出来ている。

⑤ 職員のモチベーションを保つことが出来ている

・ペアレント・トレーニングを実施する中で、保護者と一緒にする楽しさが味わえること。

・個別相談の中だけでは難しい、保護者の変化を見ることができること。

・相談員の立場だと「ほめる」は、縦の関係だが、ペアレント・トレーニングだとグループの中は横の関係であり、その中でほめることができるグループワークはすごいと感じる。

・回を重ねていくうちに、保護者の子どもの対応が「うまくなった」と感じられる姿を見ることが出来ることをうれしく感じる。

3-3 R市への家族支援普及事業アドバイザー派遣

日時：2022年12月16日 『R市ペアレント・トレーニング第6回訪問』

派遣：家族支援普及アドバイザー・県センタースタッフ

目的：R市として、『モデル市』として引き受けさせていただいた思いとして、現在R市として実施しているペアレント・トレーニングを客観的にみていただき意見をいただきたい。ペアレント・トレーニングを初めて11年目となり、改善点があれば改善しながらより良いものにしていきたい。

3-3-1 協議内容について

① テキストの見直し

・何度かテキストの見直しはしているが、現在、ステップ6で『「ながす」ってなに？/「ながす」と「ほめる」の組み合わせ』と題して、「無視」という表現を「ながす」にしている。しかし、「ながす」

という言葉は、保護者にとってわかりにくく、保護者から指摘があった。R市としては、「無視」という言葉が独り歩きしないように利用したくないと思っている。「計画的無視」は印象が悪くないと思い「ながす」にしている。説明の時には意味を話してはいるにだが、この表現でよいのか悩んでいる。

【アドバイザーより】

- ・言葉は難しい。保護者にとって「無視」はこちらが伝えたい内容からズレて理解されてしまいやすい言葉である。しかし、ペアレント・トレーニングの中で、本来の用語として無視と言う表現の意味を伝えながら、「ながす」の意味をつたえていた。「ながす＝無視」という意味であること、なぜ「ながす＝無視」が必要なのかを伝えることができていた。テキストも説明をわかりやすく出来ていたので良かったと思う。保護者にわかることばで説明できていて、実際に保護者も理解できていたと思う。なので、このテキストの内容で良いのではないかと思った。
- ・PTをおこなうなかで、保護者の様子も確認しながら、何度もテキストの見直しをおこない、「ながす」という表現にたどり着いている。R市独自の表現で良いのではないかと思う。

②客観的に見ていただき、スタッフの言動など、ファシリテーターとしてこのような方法で大丈夫なのかを教えてほしい。

【アドバイザーより】

- ・初めて見させていただいた。みなさんの説明もとてもわかりやすい。意味がわかる説明の仕方である。とても勉強になった。
- ・保護者とスタッフの距離が近く、とてもよかった。普通の勉強ではなく、気楽に学ぶ場となっている。
- ・保護者の方は、家の中で実践されワーク(宿題)をやってこられてすごい。
- ・保護者が自分の子どものことをオープンに話しながら、自分の子どもがどんな子なのかわかってきている。グループワークは、相談と違い、他の人を参考にしながら「参加したい」と来たくなるPTだった。
- ・子どもの状態は違って、同じ親の立場で話ができる。グループの強さが大事だとわかった。
- ・日々の生活で気づきにくいことを褒めて、よい循環になっている。職員も自分自身を褒められるようになっている。とてもよい。

【県センターからの質問】

- ・ペアレント・トレーニングが合わない人に対する対応はどうしているのか？
→1対1で考えていく。個別で対応しながら、保護者が自信を持てたときに、ペアレント・トレーニングにも来られるようになっている。
- ・休んだ保護者への対応はどうしているのか？

→休んだ日におこなった内容を記録し送っている。あるいは、次の回の始まる前や後に前回の内容を伝えるなどして、必ず、休んだ回の内容についてもお伝えしている。

・他の業務をしながらの実施は大変ではないか？

→ペアレント・トレーニングでは、スタッフ自身も参加しながら学ぶことが出来ているので大変だが、楽しいとも思う。保護者が変わっていく姿が見られることは、とてもうれしいし、成果が感じられる。最初に準備をすれば、そんなにたくさんあるわけではない。

・スタッフは基本何人で実施しているか？

→基本3人で行っている。リーダーが話をしている時、サブリーダー①が記録をとり、サブリーダー②が保護者のフォローを行なう。話をしながら保護者の話を記録するのはとても難しいので、役割分担をしている。そのおかげで、話をすることに集中ができる。また、スタッフの誰かが当日参加出来なかったときには2人でおこなう。お互いにフォローもできる体制である。

・スタッフの育成はどのようにしているか？

→毎年、ファシリテーターのサブにつき何度（何年）か学ぶ。そして、リーダーとなっていく体制をとっている。ファシリテーター養成研修に行くことができる時には行ってはいるが、研修先が県外であったりして、なかなか受けることが出来ないなので、実際に行いながら学んでいる。そのことで、今はペアレント・トレーニングの担当ではないペアレント・トレーニング経験者のスタッフが同じ部署に何人かいるので、わからないことがあったりしたときに相談したり、スタッフが足りないときにはサブリーダーとして応援に入ってもらっている。なので、とても心強い。

【R市より感想】

・客観的にみていただき、評価をしてもらい緊張したがよかった。自分たちの自信に繋がった。毎回、保護者から学ぶことも多く、ペアレント・トレーニングは楽しいものであることを知ってほしいと思う。

・相談員の立場だと「褒める」は縦の関係だが、ペアレント・トレーニングだとグループの中で「褒め」たりし、横の関係で学べる。改めて、グループはすごいと思った。

・回を重ねていくうちに、保護者が「子どもの対応がうまくなった。」と感じられる姿を見るとうれしい。

第4章 ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修の実施

4-1 ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修

4-1-1 研修内容

目的:市町においてペアレント・トレーニングを実施・推進することができる人材を養成する。

日時: 1日目 2022年8月2日(火) 10:00~16:30

2日目 2022年8月22日(月) 10:00~16:30

場所:キラリエ草津 草津市立市民総合交流センター

内容:事前講座として、「ペアレント・トレーニングの基礎知識&基本プラットホームとは」(講師:岩坂英巳、WEBセミナー 講演 約1時間)をオンデマンドにて視聴。

テキストは、『ペアレント・トレーニング支援者マニュアル』と『ペアレント・トレーニング実践ガイドブック』(作成:一般社団法人 日本発達障害ネットワーク JDDnet 事業委員会)を使用。表1のプログラム内容を2日間にわたりおこなう。

表1 各回のプログラム内容

	講義テーマ	グループワーク&ホームワーク
第1回	オリエンテーション 自己紹介・スタッフ紹介 「発達の気になる子どもとペアレント・トレーニング」	ウォーミングアップ「良いところ探し」 ホームワーク①いっぱいほめようシート
第2回	「子どもの行動観察と3つのタイプ分け」	演習シート①ほめる ロールプレイ①上手なほめ方を練習しよう ホームワーク②行動の3つのタイプ分け
第3回	「子どもの行動のしくみを理解しよう」 行動のABC	ホームワーク③行動のABCシート
第4回	「環境調整とスペシャルタイム」 環境を整え、ほめるチャンスを増やそう	演習シート②環境調整 ホームワーク④スペシャルタイム
第5回	「子どもが達成しやすい指示を出そう」	演習シート③指示 ロールプレイ②CCQ ホームワーク⑤指示
第6回	「待つてからほめよう ー上手な注目の外し方ー」	ロールプレイ③待つてからほめる 修了式

講師：鳥取大学医学系研究科臨床心理学講座 井上雅彦教授

公認心理師 小池由香里氏（ファシリテーター）

公認心理師 望月基子氏（ファシリテーター）

対象者：各市町の障害福祉課、発達障害者支援室・センター職員で、各市町から 1 名～2 名

参加者：第1回（2022年8月2日）は、14市町18名

第2回（2022年8月22日）は、14市町17名

※全日程の参加者は、13市町 16 名

参加者（全日程参加者）に関する基本情報を表1～表に示した。

表1 参加者の職種

	N	%
心理判定員	4	25
保健師	3	19
公認心理師	2	13
心理士	2	13
心理職	2	13
臨床心理士	1	6
保育士	1	6
家庭相談員	1	6
合計	16	100

表2 経験年数

	N	%
1年未満	3	19
3年～5年	2	13
6年～9年	4	26
10年以上	7	44
合計	16	100

表3 養成研修受講経験

	N	%
有り	7	44
同席又は見学	8	50
無し	1	6
合計	16	100

表4 実施経験

	N	%
有り	5	31
無し	11	69
合計	16	100

1日目 2022年8月2日(火) 10:00~16:30

時間	分	研修項目
9:45 ~ 10:00	15	受付 *zoom入室可9:45
10:00 ~ 10:05	5	事務連絡
10:05 ~ 10:15	10	あいさつ 行政説明(滋賀県健康医療福祉部障害福祉課)
10:15 ~ 10:30	15	講義 井上雅彦先生(鳥取大学医学系研究科臨床心理学講座)
10:30 ~ 11:10	40	実践している市町より報告 ・M市(20分)報告・質疑応答 ・R市(モデル市)(20分)報告・質疑応答
11:10 ~ 11:20	10	休憩 *グループワークの準備
11:20 ~ 12:20	60	グループワーク 4グループ(18名)に分かれる(A・B・C・D)
12:20 ~ 13:20	60	昼休憩
13:20 ~ 13:50	30	グループワーク報告 A→B→C→D 井上先生のコメントと質疑応答
13:50 ~ 15:10	80	・井上雅彦先生講義 ・ロールプレイ(各セッション25分~30分ほど) 2グループに分かれる【14名】〈4名見学〉 A:ファシリテーター小池由香里氏(参加7名:見学2名) B:ファシリテーター望月基子氏(参加7名:見学2名) ・セッション1『良いところ探し』 ・セッション2『上手なほめ方を練習しよう』 ・セッション3『行動の3つのタイプ分け』
15:10 ~ 15:20	10	休憩
15:20 ~ 15:50	30	・振り返り(感想・質疑) ・ファシリテーター小池由香里氏・望月基子氏より

15:50 ~ 16:10	20	まとめ 井上先生より
16:10 ~ 16:30	20	事務連絡・アンケート記入
16:30		終了

2日目

2022年8月22日(月)10:00~16:30

時間	分	研修項目
9:45 ~ 10:00	15	受付 *zoom入室可9時45分
10:00 ~ 10:05	5	事務連絡
10:05 ~ 11:00	55	各市町より現在の状況の報告・質問(各3分) (2日の研修を受けての感想など)
11:00 ~ 12:00	60	井上先生講義 ・ロールプレイ(各セッション25分~30分) グループにわかれる【14名】見学:3名 A:ファシリテーター小池由香里氏(参加7名:見学2名) B:ファシリテーター望月基子氏(参加7名:見学2名) ・セッション4『スペシャルタイム』 ・セッション5『指示』
12:00 ~ 13:00	60	昼休憩
13:00 ~ 14:30	90	・井上雅彦先生講義 ・ロールプレイ(各セッション25分~30分) グループにわかれる【14名】見学:3名 A:ファシリテーター小池由香里氏(参加7名:見学2名) B:ファシリテーター望月基子氏(参加7名:見学2名) ・セッション6『待つてからほめる』
14:30 ~ 14:40	10	休憩 *グループワークの準備
14:40 ~ 15:30	50	グループワーク(各市町話し合い) 3グループに分かれる(A・B・C) ・報告・質疑応答 ・ファシリテーター小池由香里氏・望月基子氏より
15:30 ~ 15:50	20	滋賀県発達障害者支援センターより報告 滋賀県での取り組みについてと今後の予定
15:50 ~ 16:20	30	井上雅彦先生コメント
16:20 ~ 16:30	10	事務連絡・アンケート記入
16:30		終了

4-2 ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修事後のアンケート調査

4-2-1 参加目的

【参加した理由】(14市町)

- ・きちんとペアレント・トレーニングを学びたい。
- ・実施したいと思っているが、ファシリテーターを行なえる人が人材育成のため。
- ・現在、実施しているが、自分たちがおこなっているペアレント・トレーニングの確認と再度、PTを学ぶため。
- ・他市町の状況を知るため。

【参加しなかった理由】5市町

- ・人手が足りなく参加したかったが出来なかった(3件)
- ・昨年参加して必要性が感じられなかった(1件)
- ・不明(1件)

4-2-2 1日目の講義について

-
- 1 講義はわかりやすくよかったです。資料の文字が小さく、見えにくい部分がありました。
 - 2 他市町の現状を聞きつつ、参考にしたいところをたくさん聞くことができたので、とても勉強になりました。GWでは、詳しく聞けたので、もっと他の市町の詳しい現状も聞きたいと思いました。
 - 3 ペアトレについてはきちんと研修を受ける機会がなかったので、いろいろと新しい発見があり、日々の業務の参考にさせていただきただけそうだと感じました。
 - 4 これまでおこなってきたPTの実施方法について、どういう意味があるのか、どんな風に進行していくのかなど、改めて気付くことがたくさんありました。ありがとうございました。
 - 5 事前研修はありましたが、もう少し時間設定を長くしていただけたらと思いました。
 - 6 ペアレントトレーニングは、現在、O市では実施しておらず、また、自分自身も発達支援への関りが初めてのため、何も分からない状態での参加でしたが、ペアレントトレーニングの大切さであったり、役割がよくわかりました。ファシリテーターがこういったものかもよくわかりました。実際に始めるとなったら、まだまだ難しいですが、できることからやっていきたいと思います。
 - 7 ファシリテーターとしてのポイントがよくわかりました。事前学習があったのでさらにわかりやすかったです。
 - 8 非常にわかりやすかった。基礎だけでなく、応用的な方法を教えていただけてよかったです。
 - 9 具体的でわかりやすかったです。取り組む際のポイントやアドバイスもあったので、実際に実施する時に活かしていけたらと思います。
 - 10 各市町によって様々な方法で実施しているということがわかった。どこまでアレンジし

てよいのかが難しいと感じた。

- 11 今回、ペアトレの内容を実際にすすめながら体験的に学ぶことができよかったです。支援者が、対象者に合わせてプログラム(内容)を考えていかないといけないのが、これからつくり出すY市にとっては、大変なところですよ。
- 12 疑問に思っていた点などについて、とても分かりやすく答えていただいて、今後の参考になるとおもいます。
- 13 要点を押さえてわかりやすく説明していただき、イメージが持ちやすかったです。グループ全体やグループに参加者である保護者の見立てが重要であると感じました。(子どもの発達や姿に関する見立てだけではなく)
- 14 非常に興味深い内容であつという間に時間が過ぎました。自分が日ごろ行っていることを振り返り、新たな気づきを得ることができました。他市の状況を知る機会になりました。
- 15 ファシリテーターの役割を学ぶことができた。他市の取り組みも聞けたので、今後の参考にしたいです。
- 16 具体的にすすめ方やワークの実践ができ、その都度の疑問にも応じていただきよかったです。
- 17 グループワークのコツ、ファシリテーターの専門性について、もう少し詳しく聞きたかった。
- 18 ファシリテーターとしても大事なことについて、要点がよくわかった。

4-2-3 1 日目のロールプレイについて

- 1 ファシリテーターの役割について体験を通じて学ぶことができよかったです。『ほめる』を見つけてもらう際、記入や発表がしにくい方への具体的な配慮の方法があれば教えていただきたい。
- 2 よく知らない人と子ども役、大人役をするのは、とても緊張すると感じました。参加する人を見て、何をするのか、どうやってやるのか検討することが大事であると思いました。
- 3 プロが相手ですので、やりやすいですが(私たちは…)保護者の方同士というのは、少し緊張されることがわかりました。井上先生の話聞いて、2回目ぐらいではしない…ということでしたので、なるほど…と納得できた部分がありました。
- 4 体験してみることで感じられることもあり、受講する立場になることができよかったです。
- 5 ほめ方のバリエーションや自分がよく使うほめ言葉などを振り返る時間になりました。
- 6 丁寧に進行してもらえたのがよかったです。実際の雰囲気や少し味わえました。
- 7 実際に体験することで、親側のドキドキとした気持ちを感じることが出来ました。ファシリテーターの方がかけてくださる声掛けが嬉しかったり、安心出来たりしたので、自

分がする時は、今日の気持ちを忘れず、不安に感じておられる保護者さんに安心できる声掛けができるよう、たくさん学んで力をつけていきたいです。

- 8 ファシリテーターの方がうまく安心できる雰囲気をつくってくださる姿が参考になりました。
- 9 参加者の気持ちを体験できたので、どのような配慮が必要かを考える機会になった。
- 10 今回はファシリテーター役もさせていただきました。みなさんの前でするのはとても緊張しましたが、よい経験でした。実際ワークをやってみたり、ロールプレイをしてみることで少し親側の気持ちも知られたかなと思いました。
- 11 対象者を誰にするのかにより、どのような雰囲気になるのかが変わってくる、どのような内容にするかねらいをしっかりと定めてから始めることが必要と感じた。
- 12 Y市で実施することを考えたときに、ロールプレイできるかなと不安もあります。もっと勉強しなければと思います。
- 13 普段、実施していないこともあり、ファシリテーター役として難しく感じました。参加者の方と実施役にいろいろと意見交換ができて、参考になることも多くよかったです。プログラムの順や取り入れ方にとっても参考になると思います。
- 14 見学という形で参加させていただきました。実際に様子を見ることで、イメージができていたり、参加者の方の感想を聞くことで、見ているだけでは気づかなかった点に気づくことができ勉強になりました。
- 15 親役、子役とともにやってみることで気づきが2倍になることを実感しました。
- 16 参加はしなかったが、グループ運営のコツ(ファシリテーターの留意点)を学ぶことができてよかった。
- 17 している方が、(私も含め)援助者なので、上手くいくが、実際にはどうなのか…と思います。サブファシリテーターの役割は大切だと思いました。
- 18 見学でしたので気軽に参加していましたが、実践的にのぞめなかったのが少し残念。
- 19 具体的に体験できて、気づきがたくさんあった。親の気持ちを体験できた。

4-2-4 会場運営について

- 1 映像も音声も問題ないように感じました。
- 2 特に気になる点はありません。
- 3 機材を使いこなしてすごいなと思いました。うちも zoom 研修とか YouTube 配信とか考えていかんとあかんですが、なかなか進みません。また教えてください。
- 4 ペアトレの経験のない方には、この研修の前に基本的なこと(ABA)やペアトレの全体的な流れなどの研修を受けてから参考される方が良いと思います。「はじめてで…わからなくて」と困っている方がおられました。

- 5 とても快適でした
- 6 このような研修の機会を設けていただきありがとうございます。他市町村のお話が聞けるのもありがたいです。
- 7 駅から近くてよかったです。
- 8 アクセスしやすい会場で、感染対策等にも配慮頂き、とてもありがたかったです。
- 9 特になし。冷房がほどよくきいた環境で勉強させていただけます。ありがとうございます。
- 10 会場が少し寒かったので、次は防寒しようと思いました。
- 11 駅から近く新しく良い会場でした。
- 12 スムーズでよかったです。

4-2-5 その他

- 1 質問ですが、参加者同士の連絡先の交換はありますか？
- 2 次回にまとめて感想を記入したいと思います。
- 3 すばらしい研修でした。ありがとうございました。
- 4 「内容の一部を無断で複製することを禁止します」と最後にありますが、今回の内容をもとにペアレントトレーニングの内容を考えようと思っています。コピーして利用もさしつかえないでしょうか？
- 5 他にペアトレについて実践的な研修などの機会があれば知りたいです。
- 6 支援者マニュアルに頁番号があるとよい。(スライド番号がありました)
- 7 「ファシリテータ養成研修」資料にページ数があると良かった。

2日目の講義について

4-2-6 「実際にロールプレイを体験(もしくは見学)することで、どのような気づきがありましたか」

- 1 やって見ないと感じられない焦りや緊張感を体験できたのはとても大きかったですし、今後、ファシリテーターを実施する人には、体験してほしいと思いました。
- 2 ロールプレイで体験した内容と実際の生活場面での関りに差が生じると親にストレスをかける場合があると考えられるため、25%ルールを事前に保護者にしっかり伝えておく必要があると思いました。
- 3 テキストを読むだけでない、実際に受ける側の立場を知ることができた。負担が高いため、ファシリテーターがうまくやらないと受ける方の負担が大きくなってしまいうことに気がつけたいと感じた。
- 4 実際にやっておられる方からアドバイスがもらえたり、体験されてのお話を聞くことができ大変参考になりました。
- 5 参加者へのさりげない配慮

- 6 ペアレントトレーニングを進めていく基礎を学ぶことができました。実際にファシリテーター役をする中で、みなさんから出た意見をどのように返していくかという難しさや自分自身の知識不足などを感じるところでした。
- 7 実際のすすめ方についてイメージがわいた。
- 8 参加者役(保護者役)として RP に参加することで、実際にファシリテーターをする時には想像できていなかった、宿題の負担や RP やグループ内で発表することの緊張感を体験することができてよかったです。実施する際にポイントや注意点にも気づくことができたように思います。
- 9 色々な実施の仕方、各ホームワークで焦点を当てるポイント(そのためにファシリテーターが各回のテーマやホームワークで目的としていることを具体的に十分把握しておく必要があること)などを体験的に学ぶことができてよかったです。
- 10 参加者の気持ちを体験することができた。子どもに「伝える」ことのやり方を学ぶことができた。特にやりにくさをかかえる保護者の方ほど悪い循環になっているのだとわかった。
- 11 保護者役となって体験する中で、保護者側の心情などを考えるきっかけになりました。保護者への気づきを促すためのファシリテーターの役割も必要と思いました。
- 12 保護者役をすることで、PT のファシリテーターをする時の言葉づかいや態度を改めて振り返ることができました。
- 13 単に講義を受けて、知識として得るのではなく、体験することで感じるあせりやほっとした感覚を得ることができて良かったです。
- 14 「これはできないな」や「これはできそう」なども含め、実際にされる方が感じるであろうことが想像しやすくなった。体験すること、そのものの価値が改めて実感できた。
- 15 親側の気持ち、ファシリテーターとしての気持ちが両方体験できとても貴重でした。
- 16 ファシリテーターのすすめ方、展開の仕方、雰囲気や一人の発言や感想から気づきを得ることがたくさんあるということを感じました。

4-2-7 「今後、事業として展開するにあたり県や発達障害者支援センターからどのようなフォロー、バックアップ体制があると良いですか(事業として展開するご予定のない市町からも、ぜひご意見をお聞かせください)」

-
- 1 実際におこなっている場面を見たいと思っているが、どのようなところに見学へ行けるのか、行くといいのか、もしご存じでしたら教えてもらいたい。他の市町、他県の様子の子の情報を知れたらうれしいです。兵庫県、明石市の情報はとても勉強になりました。
 - 2 ペアトレの運営方法についてフォローがあると助かります。人員確保について何かアドバイスがあれば教えていただきたいです。
 - 3 そこまでは検討できていないです。が、運営の仕方というよりは、実際にファシリテ

ターの技術についての相談?などができるといいのかなと思いました。

- 4 事業展開をおこなうにあたり、立ち上げのためのノウハウを教えていただくと大変ありがたいです。
- 5 アドバイザー技能、研修継続
- 6 ファシリテーター、サブなどの人的面へのフォロー
- 7 以前はやっていたとはいえ、始めるとなれば新しいスタートになると思うので、いろいろなことを教えていただくとありがたいと思います。
- 8 事業化することのメリットや効果をうまく伝える(部(局))長に)フォローが欲しい。今の人員でできる体制づくりへのアドバイス
- 9 今回のような研修が今後もあるとうれしいです。
- 10 県内の状況、情報をまとめて知らせてほしい。進める中で、困難なことがあったときの相談。
- 11 今回の研修のような人材育成のための定期的な研修。昨年度からできたような補助金など。
- 12 困ったときに相談・アドバイスをいただける。他市町のPT、実施状況を見学したい。
- 13 ペアトレ事業をどの枠で立ち上げるかを、今後検討していく段階です。4,5才~小学校1,2年頃の保護者対象で、何らかの取り組みを来年度あたりできないかと個人的には思います。試行の取り組みの際、数回でも入っていただき、助言いただける機会があるならお願いしたいです。
- 14 実際にしているところに見学に来ていただき、フィードバック指導いただくとありがたいです。どうしても、同じメンバーでしているので、別のご意見も聞かせていただけたらと思います。
- 15 ファシリとしてのスキルアップ研修を重ねていただきたい。
- 16 ペアトレの実際や成果、課題について情報交流できる機会があると良いと思います。

4-2-8 その他意見

- 1 誰を対象にどこの誰が実施するかが、今後、市の検討事項になると感じました。
- 2 開催地が草津なのは参加しやすかったです。
- 3 大変勉強になりました。グループで学習することの良さは個別面談以上のものがあると感じました。少しずつ事業実現において話し合っていきたいと思います。ありがとうございました。
- 4 ペアレントメンターの利用がいまいちイメージがしにくいので、メンターさんが活動している報告を聞かせていただけたらありがたいです。
- 5 いい会場ですね。良かったです。

4-3 満足度調査

4-3-1 「今後、所属市町で、PT を事業として展開、推進していきたいと思った」

	N	%
そう思う	11	65
ややそう思う	6	35
あまりそう思わない	0	0
思わない	0	0
合計	17	100

4-3-2 「実際に PT を開催する場面をイメージすることができた」

	N	%
そう思う	11	65
ややそう思う	6	35
あまりそう思わない	0	0
思わない	0	0
合計	17	100

4-3-3 「ファシリテーターの役割や実際の進め方を学ぶことができた」

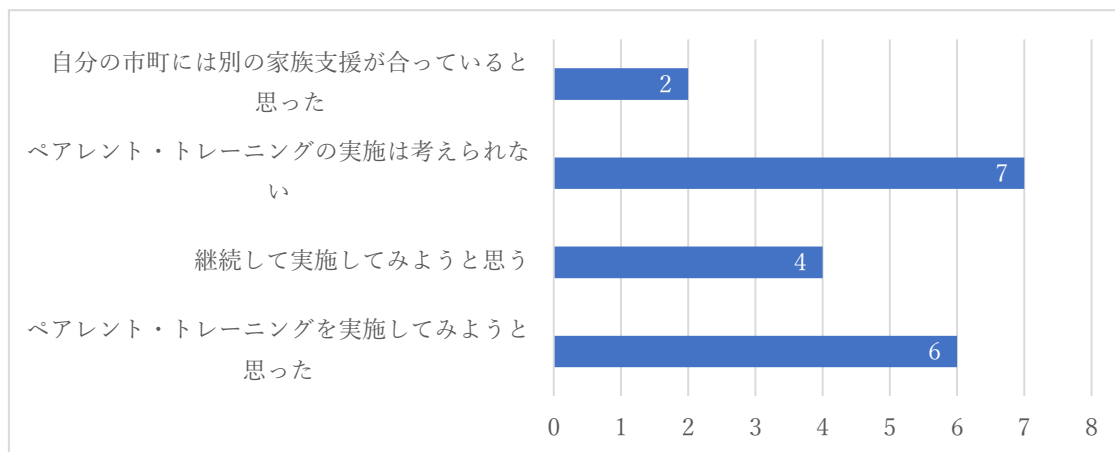
	N	%
そう思う	15	88
ややそう思う	2	12
あまりそう思わない	0	0
思わない	0	0
合計	17	100

4-3-4 「PT の概要を学ぶことができた」

	N	%
そう思う	17	100
ややそう思う	0	0
あまりそう思わない	0	0
思わない	0	0
合計	17	100

4-4 結果と効果検証

4-4-1 『ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修』を受けて、「やってみよう」「やってみたい」と意欲を思ってもらえる市町が6市町



4-4-2 実施は考えられない市町の意見

1	人員、予算の余裕がないため実施したくても出来ない
2	受ける保護者が集まらないなどがあげられました。

4-4-3 実施してみようと思った市町の意見

1	ペアレント・トレーニングの必要性を感じた。
2	ペアレント・トレーニングを通して、家族関係が悪くなるのを防ぎたい

4-4-4 継続して実施していきたい市町の意見

1	人材育成ができた
2	専門性を学ぶことができた

4-4-5 別の家族支援を実施したい市町の意見

1	ペアレント・プログラム
2	ティーチャーズ・トレーニング
3	ペアレント・トレーニングの一部のみの活用

4-5 フォローアップ研修

4-5-1 研修内容

2023年2月8日(水) 15:00~17:00

場 所:キラリエ草津 草津市立市民総合交流センター

内 容:県の取り組みとファシリテーター養成研修終了後の市町の状況について

講 師:井上 雅彦先生〔鳥取大学 医学系研究科臨床心理学講座〕

加藤 永歳氏〔厚生労働省 発達障害専門官〕

家族支援普及事業アドバイザー:井深 允子先生

参加人数:12市町15人

時 間	内 容
14:45 ~ 15:00	受付【キラリエ草津 6階大会議室】
15:00 ~ 15:10	開会 (1)家族支援事業『ペアレント・トレーニング』について 加藤 永歳氏(厚生労働省 社会・援護局 障害福祉部障害福祉課 障害児・発達障害者支援室 発達障害専門官)より
15:10 ~ 16:05	(2)ペアレント・トレーニングの普及に関する今年度の活動について (3)市町からの報告 ・市町の状況について情報共有(各市町より)
16:05 ~ 16:25	(4)家族支援普及アドバイザー 井深 允子先生より
16:25 ~ 16:35	(5)モデル市 との取り組みについての報告 ・調査結果から見えてきた内容について
16:35 ~ 16:55	(6)井上 雅彦先生 (鳥取大学 医学系研究科 臨床心理学講座 教授) より
16:55 ~ 17:00	(7)次年度の予定について ・事務連絡

4-5-2 モデル市であるR市への見学、意見交換

2022年12月2日(金)9:30~12:30(見学9:30~11:30 意見交換11:30~12:30)

目的:実際におこなっている所を見ることで、自分の市町でおこなうための参考にする

参加市:3市(N市・H市・K町)

【感想】

H市→ペアレント・トレーニングを今年からおこなっている。モデル市のペアレント・トレーニン

グは、保護者が主体的に意見を出し合っていた姿が印象的だった。宿題の振り返りの時間もしっかりと1人ずつが深め合うことが出来ていた。スタッフの入り方もとてもうまく、話の流れもホワイトボードに記入しながらおこなっていた。とても参考になった。自分の市の課題として、保護者の主体性をどのように引き出していくことができるのかが課題と思った。

N 市→まだ、ペアレント・トレーニングはおこなっていない、初めてペアレント・トレーニングを行っているのを見た。保護者同士で「これやってみた」「やってみただけどうまいかなかった」「今、これに困っている」など、保護者同士の会話が多く、支援者と保護者との相談の中では生まれにくい支援体制だと思った。グループワークの大切さがわかった。そして、改めてPTは大切であると感じた。」

K 町→120分が長いようですごく保護者の交流がすごくありグループワークの良さがわかった。ファシリテーターの入るタイミングとひくタイミングがとてもよく分かった。

アドバイザーより

実施を検討している人は、ぜひ見学に行ってもらいたい。「百聞は一見にしかず」やっている所を見るとイメージが持てる。保護者がリラックスして、お互いに話し合いをしながら解決している姿があった。そして、ファシリテーターの入るタイミングも上手だった。相談や個別支援にある緊張感はなく、でも課題解決に向かっていった。保護者の方も手ごたえを感じていたのではないかと思う。

4-6 PT ファシリテーターフォローアップ養成研修事後のアンケートによる満足度調査

4-6-1 今後、ご所属の市町でペアレント・トレーニングを事業として推進、展開したいと思うか

	N	%
満足(そう思う)	8	53
やや満足(ややそう思う)	5	33
どちらともいえない	2	13
やや不満(あまりそう思わない)	0	0
不満(思わない)	0	0
合計	15	100

4-6-2 ご所属の市町で実際にペアレント・トレーニングを実施する場面や規模をイメージができたか

	N	%
満足(そう思う)	5	33
やや満足(ややそう思う)	6	40
どちらともいえない	4	27
やや不満(あまりそう思わない)	0	0
不満(思わない)	0	0
合計	15	100

4-6-3 ファシリテーター養成研修の講師であり、ペアレント・トレーニングを実際に実施していただける井上先生(鳥取大学)との質疑応答について

	N	%
満足(そう思う)	12	80
やや満足(ややそう思う)	3	20
どちらともいえない	0	0
やや不満(あまりそう思わない)	0	0
不満(思わない)	0	0
合計	15	100

4-6-4 ペアレント・トレーニングを実際に実施している市町からの実践報告について

	N	%
満足(そう思う)	10	67
やや満足(ややそう思う)	5	33
どちらともいえない	0	0
やや不満(あまりそう思わない)	0	0
不満(思わない)	0	0
合計	15	100

4-6-5 他市町の事業担当者との顔の見える関係づくり(研修会での情報交換やグループワーク、実施市町への見学)について

	N	%
満足(そう思う)	11	73
やや満足(ややそう思う)	4	27
どちらともいえない	0	0
やや不満(あまりそう思わない)	0	0
不満(思わない)	0	0
合計	15	100

4-6-6 他市町の状況(近況や今後の予定)を知る機会について

	N	%
満足(そう思う)	9	60
やや満足(ややそう思う)	6	40
どちらともいえない	0	0
やや不満(あまりそう思わない)	0	0
不満(思わない)	0	0
合計	15	100

4-6-7 ファシリテーター養成研修後にも定期的な研修や情報交換の場があることについて

	N	%
満足(そう思う)	8	53
やや満足(ややそう思う)	7	47
どちらともいえない	0	0
やや不満(あまりそう思わない)	0	0
不満(思わない)	0	0
合計	15	100

4-6-8 県の政策や取り組みについて定期的に確認できることについて

	N	%
満足(そう思う)	8	53
やや満足(ややそう思う)	7	47
どちらともいえない	0	0
やや不満(あまりそう思わない)	0	0
不満(思わない)	0	0
合計	15	100

4-6-9 今年度の研修全体の満足度

	N	%
満足(そう思う)	8	53
やや満足(ややそう思う)	5	33
どちらともいえない	2	13
やや不満(あまりそう思わない)	0	0
不満(思わない)	0	0
合計	15	100

4-6-10 その他意見・感想

- 1 実際に担当するであろう立場の者が参加させていただくことで、本市がどのような形で実施するのがよいか、又は、今あるものをどう工夫すると、同じ効果のあるものとして成り立つのかが具体的に検討しやすくなると思いました。他市の状況を聞いたことは、たいへん有意義でした。ありがとうございました。
- 2 必要性は感じるが、新しいことに取り組む余裕がない実情もあります。療育の中で取り組む発想しかなかったが、ことばの教室や相談のなかで必要な保護者に案内するということもアイデアとして大切だと感じました。しかし、必要な方にどう的確に届けるかということには工夫がいるだろうと思うと、当センターの実情とあわせて考えていきたい。また、すすめられているからやるということではなく、色々なライフステージの支援全体をみた上でH市にとっての優先度も検討しながらまた情報を集めていきたいと思いました。ありがとうございました。
- 3 手さぐりの中実施をスタートして、これでいいのかと感じながらすすめていたので、RP で経験したり、実施方法を講義の中で深めていけたのでよかったです。他市町のペアトレを見学する機会について来年度も実施していただきたいです。
- 4 今後も市町村の担当者同士で情報や意見交換ができる機会を持ってもらえるとありがたいです。(井上先生の質疑応答も含め)

- 5 人口規模の違いもあるので、他市町の成功例をそのまま取り入れることが難しい。センターの職員間に温度差があるので、実施までのハードルが高い。PEATREを始める以前に保護者同士又は、支援者と保護者の関係づくりが必要だが、そこまでする時間がなかなか取れない。
- 6 他市町の実践と今までの試みについて、具体的に知ることができて、とても参考になりました。子ども自身の発達保障とどう融合させていくかは、きっと試行錯誤が必要だと思いますが、「やってみないと」の気持ちにはなりました。
- 7 センターとして取り組みだしてからの研修会なので、自分たちの具体的な動きをイメージしながら話を聞くことができました。また、困ったことなどがあった時は、連絡させていただきたいと思います。今後もよろしくお願いします。
- 8 市町の実施状況を教えていただき参考になりました。事業を進めるにあたり幼児課や園所等の関係機関と連携してニーズ把握に努めていきたいです。
- 9 他市町の状況を聞くことができるのはとてもよかったです。実施方法や効果を知ることができ、情報を室(課内)に伝えていき、PEATRE実施へ進められるようにしていきたいです。
- 10 実際のPEATREの参観は、保護者の緊張度や思いもあるので、なかなか難しいと思いますが、ビデオ紹介などで、実践報告などがあってもいいのかなと思います。
- 11 モデル事業として、貴重な経験をさせていただきました。スタッフ一同、心より感謝いたします。今後もよろしくお願いします。

第5章 今後の事業の方向性

5-1 考察

このペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修・フォローアップ研修を通して、ペアレント・トレーニングにおける基本プラットフォームの重要性を各市町担当者が確認することができた。このことで、自分たちの市町が実施していたペアレント・トレーニングにその要素が一部しかなく、実施効果が低い可能性があることに気付き、見直しを検討する市町もみられた。また、研修受講前の調査で未実施だった15市町のうち 12 市町がすでに実施しているモデル市等の実施報告を聞き、実施できない理由としてあげられていた「人手不足・業務多忙で余裕がない」「市民からのニーズがない」などは、方法によっては解決することができると思えるに至ったことは大きな成果としてあげられる。

研修時には、各セッションの進め方についてもさることながら、各市町の情報交換の時間をできるだけ作ったことで、担当者間のコミュニケーションが大幅に増え、円滑に情報交換する様子が見られた。研修後の市町担当者の横断的なネットワークの形成にも繋がったと考えられる。

各市町と県センターは、この事業を実施する以前からやり取りがあったところが多かったが、調査のために各市町を訪問や電話連絡したことで、改めて市町の状況を把握することができた。このことは、このペアレント・トレーニングの普及に向けた動きだけでなく、今後の各市町と滋賀県発達障害者支援センターの役割分担等の整理についても一緒に考えることができるきっかけとなったのではないかと考えられる。

5-2 課題と今後の展望

次年度もペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修・フォローアップ研修を実施予定している。そして、R市が療育とうまく連携していることを考えると、この研修は、単に人材育成だけではなく、市内連携のきっかけ作りも行えるものとした。そのために各市町の療育教室へも研修の参加を呼びかけていこうと考えている。

また、必要があれば、アドバイザーを派遣する。あるいは、県センターのスタッフの派遣を行い、実施中の市町・導入検討段階にある市町・実施を検討している市町にそれぞれの状況に応じて一緒に考えたり、情報提供したり、適切なアドバイスができるよう県センターもまた、全国の状況把握やスタッフの研修等の研鑽を積んでいかなければならないと考えている。

県センターが、実施を検討している市町に対して、R市で得られた5つの要素を取り入れられるよう情報提供等の協力体制を整えていくこととする。引き続きペアレント・トレーニングの見学・体験会を実施し、参加している保護者の様子を見ることにより、他市町のスタッフがその必要性を認識できるよう、実施している市町と日程調整等をしていく。また、人口規模が小さく実施が難しいと感じている市町に対しては、複数の自治体もしくは圏域単位での協同体制等について協議し、実施の可能性について一緒に考えていく。

今後、滋賀県内のどこに住んでいても、希望があればペアレント・トレーニングを受けられる

ような地域づくりを行うことで、この取り組みを全国どこの地域に住んでいても、子育てに悩んでいる保護者に届けることができるようになればとの願いを持って、この事業の普及をすすめていきたい。

2022年度 発達障害児者及び家族支援普及事業
ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修フォローアップ研修

滋賀県における ペアレント・トレーニング普及のための取り組み

2023年2月8日（水）15時～17時
滋賀県発達障害者支援センター

1

本日の内容

1. 家族支援事業『ペアレント・トレーニング』について
加藤 永歳氏（厚生労働省 社会・援護局 障害福祉部障害福祉課 障害児・発達障害者支援室 発達障害専門官）より
2. ペアレント・トレーニング普及に関する今年度の活動について
3. 各市町より情報共有
4. 井深 允子先生（家族支援普及事業アドバイザー）より
5. モデル市であるR市との取り組み
6. 井上雅彦先生（鳥取大学 医学系研究科 臨床心理学講座 教授）より
7. 次年度の予定について

2

なぜ家族支援が必要か？

- ・ 幼児期は変化が激しかったり、家庭環境の影響を受けるため、医学的な診断を早期に出すのは困難。しかし、困りごとを抱えている子どもたちがいる。また、親御さんも困りごとを感じている。
- ・ 早期支援をするためには、子どもたちを取り巻く一番身近な環境である親御さんを支援するという重要なポイントになる。それは、虐待やマルトリートメントの予防になる。
- ・ **親御さんを支援をするという事が、発達障害の支援をおこなうもっとも最初におこなうべき課題である。**

井上雅彦先生による講義より
鳥取大学医学系研究科臨床心理学講座

3

発達障害児者及び家族等支援事業 関連資料3

【事業概要】
 発達障害者の家族が互いに支え合うための活動等を行うことを目的とし、ペアレントメンターの養成や活動の支援、ペアレントプログラム、ペアレントトレーニングの導入、ピアサポートの推進及び青年期の居場所作り等を行い、発達障害児者及びその家族に対する支援体制の構築を図る。

【実施主体】 都道府県、市区町村 【補助率】1/2

ペアレントメンター養成等事業

- ・ペアレントメンターに必要な研修の実施
- ・ペアレントメンターの活動費の支援
- ・ペアレントメンター・コーディネーターの配置 等

家族のスキル向上支援事業

- ・保護者に対するペアレントプログラム、ペアレントトレーニングの実施 等

ピアサポート推進事業

- ・同じ悩みを持つ本人同士や発達障害児を持つ保護者同士、きょうだい同士等の集まる場の提供
- ・集まる場を提供する際の子どもの一時的預かり 等

その他の本人・家族支援事業

- ・発達障害児者の通応力向上のためのソーシャルスキルトレーニング(SST)の実施 等

発達障害者等青年期支援事業

- ・ワークショップ等の開催による青年期の発達障害者同士が交流する機会の提供 等

山形：発達障害者支援センター

1. 家族支援事業『ペアレント・トレーニング』について

加藤 永歳氏

(厚生労働省 社会・援護局 障害福祉部障害福祉課 障害児・発達障害者支援室 発達障害専門官)

5

発達障害者支援法 第十三条

(発達障害者の家族等への支援)

都道府県及び市町村は、発達障害者の家族その他の関係者が適切な対応をすることができるようにすること等のため、児童相談所等関係機関と連携を図りつつ、**発達障害者の家族その他の関係者に対し、相談、情報の提供及び助言、発達障害者の家族が互いに支え合うための活動の支援その他の支援を適切に行うように努めなければならない。**

6

発達障害者支援法 第五条

(児童の発達障害の早期発見等)

3 市町村は、児童に発達障害の疑いがある場合には、適切に支援を行うため、当該児童の保護者に対し、継続的な相談、情報の提供及び助言を行うように努めるとともに、必要に応じ、当該児童が早期に医学的又は心理的判定を受けられることができるよう……

7

ペアレント・トレーニング 基本プラットフォーム

ペアレント・トレーニング 「基本プラットフォーム」



実施するプログラムをペアトレと呼ぶための必須となるもの

基本プラットフォーム

①コアエレメント(プログラムの核となる要素)

- ・子どもの良いところ探し & ほめる
- ・子どもの行動の3つのタイプわけ
- ・行動理解 (ABC分析)
- ・環境調整 (行動が起きる前の工夫)
- ・子どもが達成しやすい指示
- ・子どもの不適切な行動への対応

②運営の原則

親がどのように学ぶのか、親にどのように教えるのか、といった運営の原則や工夫

③実施者の専門性

実施にあたり、多くのスキルが必要となる
ファシリテーター、サブファシリテーターの役割

8

コアエレメント：プログラムの核となる共通の6つの要素



コアエレメントは、わが国の代表的なペアレント・トレーニングプログラムに共通の要素で、プログラムの核となるもの

ペアレント・トレーニングの質的レベルの維持

9


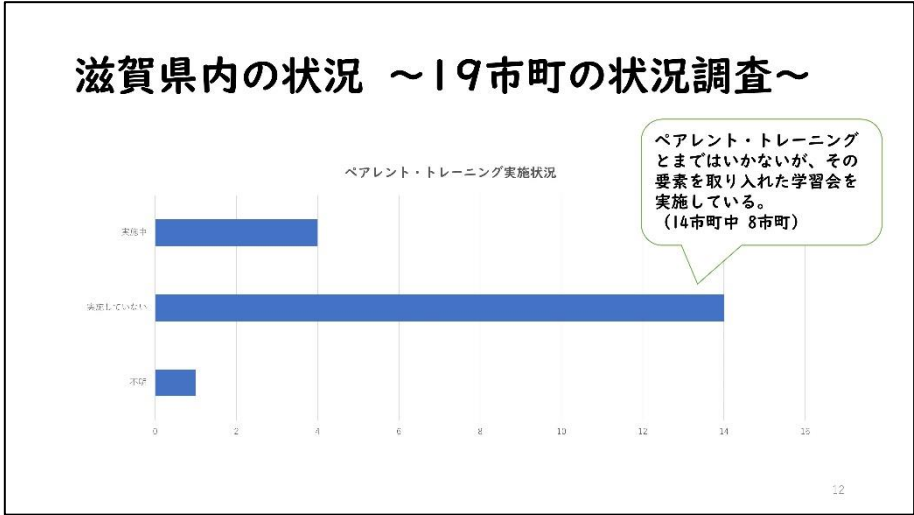


2. ペアレント・トレーニング普及において

県内19市町への支援

↓

- ◆ **家族支援事業の開始もしくは継続するための、各市町の体制づくり**
 - 各市町の状況調査 (19市町訪問)
- ◆ **家族のスキル向上支援事業のひとつである、『ペアレント・トレーニング』が実施できる人材の育成**
 - 『ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修』開催 (2022年8月2日、22日)

ペアレント・トレーニングを普及させるための取り組み【人材育成】

市町担当者研修会

目的：ペアレント・トレーニングが市町で実施できる体制づくりの検討

【前期】2021年9月27日『ペアレント・トレーニング体験』
講師：井上 雅彦先生（鳥取大学 医学系研究科 臨床心理学講座）
【後期】2021年11月11日『市町情報交換会』
家族支援普及アドバイザー 井深允子先生

ファシリテーター養成研修

目的：ペアレント・トレーニングファシリテーターを育てる

2022年8月2日、22日 10時～16時半 講義・ロールプレイ
講師：井上 雅彦先生（鳥取大学 医学系研究科 臨床心理学講座）

実施市への見学依頼 ：各市町のネットワーク構築

目的：他市町のペアレント・トレーニング実施体制の構築

・実施を検討している市町担当者が、実際に実施している市町でペアレント・トレーニングを見学、担当者との意見交換をできるよう依頼
・実施するイメージをもってもらうため、他市町と連携しながら各市町のニーズにあったペアレント・トレーニングを実施するための参考としてもらうため

13

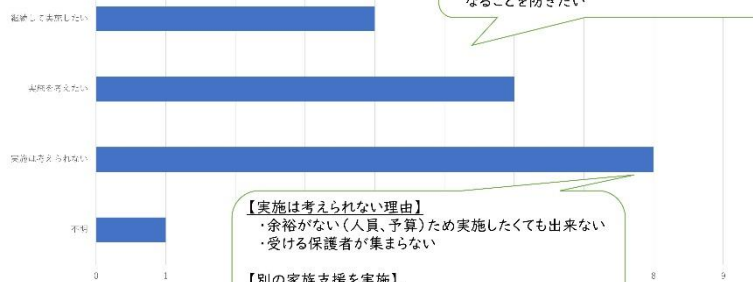
ファシリテーター養成研修参加後の意識調査

【継続して実施しようと思う】(4市町)

・人材育成ができた
・専門性を学ぶことができた

【実施しようと思う】(6市町)

・ペアレント・トレーニングの必要性を感じた
・ペアレント・トレーニングを通して、家族関係が悪くなることを防ぎたい



【実施は考えられない理由】

・余裕がない（人員、予算）ため実施したくても出来ない
・受ける保護者が集まらない

【別の家族支援を実施】

・ペアレント・プログラム
・ティーチャーズトレーニング
・ペアレント・トレーニングの一部分のみ活用

14

3. 各市町からの報告

15

4. 井深允子先生より（家族支援普及アドバイザー）

16

5. モデル市であるR市との取り組み

1. R市での取り組みについてうかがう
→ 事業を立ち上げた背景、継続できている理由、
担当者の想い（やりがい、効果、難しさも含め）
2. 実際にペアレント・トレーニングを見学
→ 他市町の事業担当者も同行してもらう



17

1. R市での取り組みについて

ペアレント・トレーニングを始める経緯

保育園、幼稚園での巡回発達相談

～課題～

- ・「保護者支援」
- ・「ケース増加に応じたフォロー体制」
- ・「保育者支援」



2012年「ペアレント・トレーニング」を開始



18

R市が継続できている理由

～調査結果から見えてきたこと～

①機関連携（課内での連携）＝参加者の確保、必要な人に的確に届ける

・2012年 療育教室に通所している保護者対象（試験的におこなう）

＊R市発達支援課と療育教室とが連携（同一組織内）

＊公立幼稚園と協働による「ペアレント・トレーニング」、
「ティーチャー・トレーニング」を開始（～2021年度終了）

・2022年 小学1年生（療育教室及び幼児ことばの教室を終了した保護者）、
個別相談の中から参加者を募る

＊2020年からのコロナ禍も、感染対策をおこないながらおこなう

＊各機関と連携し、支援が弱くならないように気を付ける

19

R市が継続できている理由

～調査結果から見えてきたこと～

②人材育成

・ペアレントトレーニングファシリテーター養成研修を受講（県外で）

・実施する中で学ぶ体制を整える（職場内で）

＊経験のあるリーダーの下で、サブスタッフとして参加して学ぶ



・職場内でペアトレ経験の職員が増えていく。

＊相談できる職員が増える

＊保護者にペアレント・トレーニングを案内できる職員が
増える



20

R市が継続できている理由

～調査結果から見えてきたこと～

③テキストの作成（保護者用・支援者用マニュアル）

・岩坂英巳先生（奈良教育大学）の資料を参考に、“R市で使いやすいように”
アレンジしたテキストを作成

⇒実際に実施する中で、保護者の様子をみながらテキストの内容について見直す

・職員の準備の負担が減少

⇒作成した支援者用マニュアルにそっておこなう

⇒ペアレント・トレーニングを繰り返し行うことで、準備の負担が少ない

④予算の確保

・予算を確保 ⇒ 職員の研修 ・ 託児 ・ 事務用品

21

R市が継続できている理由

～調査結果から見えてきたこと～

⑤職員モチベーションを保つことができている

- ・R市障がい福祉計画（障害者プラン）にて事業のひとつとして位置づけることで、目的をもっておこなっている。
- ・ペアレント・トレーニングを実施する中で、保護者と一緒にする「楽しさ」が味わる
- ・保護者の変化が見える（相談支援だけでは難しい部分）
- ・相談員の立場だと「褒める」は縦の関係だが、ペアレント・トレーニングだとグループの中で「褒め」たりし、横の関係で学べる。改めて、グループはすごいと思った。
- ・回を重ねていくうちに、保護者が子どもの対応が「うまくなった」と感じられる姿を見るとうれしい。
- ・ペアレント・トレーニングの中で困ったことやモヤモヤとしたことがあっても、相談できる職員がいるので、気持ちが前向きになることができる。

22

◆ペアレント・トレーニングに参加した『保護者のアンケート』より

◆R市より1年間の振り返り

23

2. R市ペアレント・トレーニングの見学

◆12月2日（金）第5回目 N市、H市、K町が見学

- ◆12月16日（金）第6回目
アドバイザー派遣
→家族支援普及アドバイザー井深先生訪問
 - ①テキストの見直し
 - ②事業に関するアドバイス



24

6. 井上雅彦先生より

(鳥取大学 医学系研究科 臨床心理学講座 教授)

25

7. 次年度以降の取り組み

◆今後、実施を検討している市町へのバックアップ

◆人材育成

「ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修」

◆今後、実施を検討したい市町へのバックアップ



26

◆家族支援普及事業アドバイザー派遣

(ペアレントメンター、ペアレント・トレーニングについて)

*市町からのご希望により訪問いたします!

(家族支援普及アドバイザーの井深允子先生と当センター職員がお伺いします)

*気軽にお問い合わせください。

(県センター電話番号 077-561-2522)



27

令和4年度発達障害児者地域生活支援モデル事業
ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修 報告書

発行日 令和5年3月31日発行

発行 社会福祉法人グロー(GLOW) 滋賀県発達障害者支援センター
南部センター(滋賀県草津市笠山 8-5-130 滋賀県医療福祉相談モール内)
北部センター(滋賀県彦根市日夏町堀溝 3703-1 平和堂日夏店 2F)